

令和 6 (2024) 年度

事業報告書

学校法人 星薬科大学

目次

1 法人の概要	
1. 基本情報	1
2. 建学の精神、教育理念及び教育目的	2
3. 学校法人の沿革	4
4. 設置する学校、学部、学科等	7
5. 2024年度学生数	8
6. 収容定員充足率	9
7. 名誉役員に関する事項	10
8. 役員に関する事項	10
9. 評議員に関する事項	11
10. 名誉教授	12
11. 教授会構成員	13
12. 教職員数	14
2 事業の概要	
1. 主な教育・研究の概要	15
2. 2024年度事業概要	25
3. 補助金等に関する事項	50
4. 最近5ヶ年の入試結果	59
5. 最近5ヶ年の薬剤師国家試験結果	61
6. 2024年度学位授与数	61
7. 2024年度就職・進学状況	62
3 財務の概要	
1. 決算の概要	63
2. その他	69
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応等	70

2 事業の概要

1. 主な教育・研究の概要

(1) 薬学部

3つのポリシー

<2023年度までの入学者>

【薬学科】

■3つのポリシーの基本方針

本学の創立者・星一の「世界に奉仕する人材」の教えを理解し、健康、医療、福祉に強い関心を持ち、世界を意識した幅広い視野を有する薬剤師の育成を目指すという方針の下、3つのポリシーを設定する。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

薬学科は6年以上在学し、薬学科3つのポリシーの基本方針の下に「臨床の場において高い倫理観と高度な専門性を発揮できる薬剤師の養成」という本学科の教育目的を達成するために編成された授業科目を履修し、次に掲げる5つの能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。

1. 見識ある医療人としての豊かな人間性・高い責任感・倫理観や幅広い視野・患者本位の視点・薬剤師としての心構えを有する。
2. 高度化、専門化する医療に対応できる薬学の基礎知識と専門知識を有する。
3. 科学的・論理的な思考能力を基礎として、問題を構造化し、解決する能力を有する。
4. チーム医療や地域医療において、薬の専門家として活躍するために必要な臨床現場での実践的な技能とコミュニケーション能力を有する。
5. グローバル化に対応した国際感覚や語学力を有する。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

薬学科3つのポリシーの基本方針の下に設定したディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身に付けるために、必要な知識・技術・態度の修得を目指して授業を配置し、次のように教育課程を編成し、実施する。

なお、各授業科目では、シラバスにより到達目標・受講心得・学修内容・評価方法等を示し、教育を実施する。

1. 見識ある医療人としての豊かな人間性・高い倫理観や幅広い視野を備えた薬剤師を育成するために、全学年を通じて薬学教養教育科目を配置する。
2. 高度化、専門化する医療に対応できる薬剤師を育成するために、低年次では物理、化学及び生物を基盤とする薬学基礎教育科目を配置し、高年次では医療薬学を中心とした薬学専門教育科目を配置する。
3. 科学的・論理的な思考能力を基礎として、問題を構造化し、解決する能力を備えた薬剤師を育成するために、低年次から研究能力を培う薬学基礎教育科目と実習科目を配置する。

4. チーム医療や地域医療において、薬の専門家として活躍できる薬剤師を育成するために、臨床現場で必要な実践的な技能とコミュニケーション能力を修得する演習・実習科目を配置する。
5. グローバル化に対応した国際感覚や言語力を有する「世界に奉仕する薬剤師」を育成するために、全学年を通じて語学能力を培う薬学教養教育科目を配置する。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

薬学科3つのポリシーの基本方針の下に「臨床の場において高い倫理観と高度な専門性を発揮できる薬剤師の養成」という教育目的を実現するために、入学試験において数学や理科等の基礎学力、科学的思考力及び語学力を評価する。また、医療人となるのにふさわしい資質として、豊かな人間性、倫理観、コミュニケーション力、行動力を重視して入学者を選抜する。

求める学生像（資質・能力）

1. 医療人になるのにふさわしい、倫理観を有し、協調性や思いやりを有する。
2. 薬学に必要とされる知識、技能を修得するのに必要な、数学、物理、化学、生物に対する基礎学力を有し、かつ科学的に問題解決する姿勢、思考力を有する。
3. 医療、健康に対する深い関心や問題意識を正しく持ち、薬剤師として社会に貢献したいという強い意欲を有する。
4. 医療における問題や環境に実践的関心を示し、十分なコミュニケーション能力を有する。
5. グローバル化した世界の医療分野で活躍していくのに必要な語学力を有する。

【創薬科学科】

■3つのポリシーの基本方針

教育者であるとともに起業家であった本学の創立者・星一の精神を根幹とし、研究者、技術者そして起業家としての探求心、独創性、問題解決能力を有し、生命・健康を科学する人材の育成を目指すという方針の下、3つのポリシーを設定する。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

創薬科学科は4年以上在学し、創薬科学科3つのポリシーの基本方針の下に「薬学の基礎として生命・健康を科学し、創薬研究・開発に携わる人材の育成」という本学科の教育目的を達成するために編成された授業科目を履修し、次に掲げる6つの能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（薬科学）の学位を授与する。

1. 医療を含む生命科学領域に関わるための広い教養を身に付け、生命や健康に対する高い倫理観を身に付けている。
2. 医薬品や機能性素材などの創製に必要な基礎知識と高度な専門知識と技術を身に付けている。
3. 医療を含む生命科学領域で活躍するために必要となるコミュニケーション能力並びにプレゼンテーション能力を身に付けている。

4. 人々の健康に携わり、広く社会に貢献しうる人材に必要な技能や態度を身に付けている。
5. 人を支援する専門的かつ協働的な実践力を身に付け、人々の健康と福祉の向上に貢献できる起業家となり得る能力を身に付けている。
6. 自ら設定した研究課題に対して、適切な手法を選択し、解決に導く方法を身に付けている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

創薬科学科3つのポリシーの基本方針の下に設定したディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身に付けるために、必要な知識・技術・態度の修得を目指して授業を配置し、次のように教育課程を編成し、実施する。

なお、各授業科目では、シラバスにより到達目標・受講心得・学修内容・評価方法等を示し、教育を実施する。

1. 生命や健康に対する高い倫理観を備えた人材を育成するために、自然科学・人文科学・社会科学の各分野の教養教育科目を配置する。
2. 医薬品や機能性素材などの創製を実現しうる人材を育成するために、低年次では生命科学に関する基礎的な科学知識を培う基礎教育科目を配置し、高年次では生命科学に関する高度な専門知識を修得する専門教育科目を配置する。
3. 医療を含む生命科学領域でグローバルに活躍しうる人材に必要な語学力・コミュニケーション能力並びにプレゼンテーション能力を培う教育科目を配置する。
4. 人々の健康に携わり、広く社会に貢献する技能や態度を有する人材を育成するために医薬品や生命科学領域に関する講義・演習・実習科目を配置する。
5. 人々の健康と福祉の向上に貢献しうる起業家としての能力を養うために必要な教養教育科目及び専門教育科目を配置する。
6. 自ら設定した研究課題を解決に導く能力を養うために、問題を構造化し、解決する能力を習得できる教養教育科目及び専門教育科目を配置する。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

創薬科学科3つのポリシーの基本方針の下に「薬学の基礎として生命・健康を科学し、創薬研究・開発に携わる人材の育成」という教育目的を実現するために、入学試験において自然科学系分野の科目に対して一定以上の基礎学力を有していること、海外文献を読みこなしたり、外国語によるコミュニケーション・スキルも必要不可欠であることから、英語力を有していることを重視して入学者を選抜する。

求める学生像（資質・能力）

1. 人々の健康を守ることを通じて社会に貢献しようとする志を有する。
2. 数学や理系科目における基礎学力を有し、より高度な専門知識を身に付けようという強い意欲を有する。
3. 論理的に思考・判断する力を持ち、かつ科学的に問題解決する姿勢を有する。
4. 自立心旺盛で勉学と研究意欲に溢れ、先端医療を支える生命科学を積極的に学ぶ姿勢を有する。

5. 将来、わが国のみでなく国際的に活躍しようとする意欲と語学力を有する。

<2024年度以降の入学者>

【薬学科】

■ 3つのポリシーの基本方針

本学の創立者・星一の「世界に奉仕する人材」の教えを理解し、健康、医療、福祉に強い関心を持ち、世界を意識した幅広い視野を有する薬剤師の育成を目指すという方針の下、3つのポリシーを設定する。

■ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

薬学科は、「薬学の基礎として生命・健康を科学し、薬物の適正使用を実践し、医療の進歩に追随する薬とヘルスケアの専門家として活躍する人材を育成する」という教育目的を達成するために、次に掲げる4つの資質を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。

1. 豊かな生活を送るための文化や自然に関する知識と、生命・健康を科学するためのコミュニケーション力、プレゼンテーション力、情報処理力を獲得する。
2. 薬とヘルスケアの専門家として求められる自己管理能力、チームワーク力、倫理観、社会的責任感を修得する。
3. 薬とヘルスケアの専門家として活躍するために必要な研究遂行能力と課題発見・問題解決能力、さらには生涯にわたって主体的に学習しようという意志をもつ。
4. 薬とヘルスケアの専門家に必要となる高度な知識と技術を身に付ける。

■ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

薬学科はディプロマ・ポリシーに示した目標を学生が達成できるように、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成する。

1. 豊かな生活を送るための文化や自然に関する知識と、生命・健康を科学するためのコミュニケーション力、プレゼンテーション力、情報処理力を獲得するために、薬学英語、人と文化、基盤情報科学の科目を配置する。
2. 薬とヘルスケアの専門家としての自己管理能力、チームワーク力、倫理観、社会的責任感を獲得するために、薬学と社会の科目を配置する。
3. 薬とヘルスケアの専門家として活躍するために必要な研究遂行能力と課題発見・問題解決能力、さらには生涯にわたって主体的に学習しようという意志を獲得するために、基礎薬学、衛生薬学、薬学研究の科目を配置する。
4. 薬とヘルスケアの専門家に必要となる知識と技術を獲得するために、医療薬学、臨床薬学の科目を配置する。

教育方法

1. ディプロマ・ポリシーに掲げた資質をもつ学生を育成するために、「ステップ1:一般教養学・基礎科学の基盤強化」、「ステップ2:基礎薬学・応用薬科学の強化」、「ステップ3:専門家の育成を目指した臨床薬学の実践」のための授業科目を2年単位

で段階的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を行う。

2. プレゼンテーション、SGD (Small Group Discussion) 等の機会を積極的に取り入れ、主体的に取り組む力を養成する。

評価方法

1. 学生の教育評価は、各科目のシラバスに定める成績評価の方法・基準によって評価する。
2. ディプロマ・ポリシーに掲げた資質を星薬科大学アセスメント・ポリシーに定める評価方法により評価することで、学修成果の評価を実施する。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

薬学科はディプロマ・ポリシーに掲げた資質をもつ学生を、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容により育成するために、次に掲げる4つの能力と資質を有する人を求めています。

求める学生像(資質・能力)

1. 豊かな生活を送るための文化や自然に関する知識と、生命・健康を科学するための基礎学力を有する人
2. 薬とヘルスケアの専門家になるための思考力、判断力を有する人
3. 生涯にわたって薬学を主体的に学習しようと取り組む向上心が強い人
4. 薬とヘルスケアの専門家に必要となる知識と技術を身に付けるために、学習、研究に邁進できる人

入学者選抜の基本方針

上記のような能力と資質要素を備えた学生を選抜するため、本学では、学校推薦型選抜及び一般選抜を実施する。学校推薦型選抜においては、基礎学力判定で1、2、4を、調査書、面接で1～4を確認する。一般選抜においては、個別試験、大学入学共通テストで1、2、4を、調査書で3を確認する。

【創薬科学科】

■3つのポリシーの基本方針

教育者であるとともに起業家であった本学の創業者・星一の精神を根幹とし、研究者、技術者そして起業家としての探求心、独創性、問題解決能力を有し、生命・健康を科学する人材の育成を目指すという方針の下、3つのポリシーを設定する。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

創薬科学科は「薬学の基礎として生命・健康を科学し、医薬品や食品等の開発・品質保証に携わる人材を育成する」という教育目的を達成するために、次に掲げる4つの資質を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（薬科学）の学位を授与する。

1. 豊かな生活を送るための文化や自然に関する知識と、生命・健康を科学するための

- コミュニケーション力、プレゼンテーション力、情報処理力を獲得する。
2. 医薬品や食品等の開発や品質保証の専門家として求められる自己管理能力、チームワーク力、倫理観、社会的責任感を修得する。
 3. 医薬品や食品等の開発や品質保証の専門家として活躍するために必要な研究遂行能力と課題発見・問題解決能力、さらには生涯にわたって主体的に学習しようという意志をもつ。
 4. 医薬品や食品等の開発や品質保証に必要な知識と技術を身に付ける。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

創薬科学科はディプロマ・ポリシーに示した目標を学生が達成できるように、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成する。

1. 豊かな生活を送るための文化や自然に関する知識と、生命・健康を科学するためのコミュニケーション力、プレゼンテーション力、情報処理力を獲得するために、薬学英語、人と文化、基盤情報科学の科目を配置する。
2. 医薬品や食品等の開発や品質保証の専門家としての自己管理能力、チームワーク力、倫理観、社会的責任感を獲得するために、薬学と社会の科目を配置する。
3. 医薬品や食品等の開発や品質保証の専門家として活躍するために必要な研究遂行能力と課題発見・問題解決能力、さらには生涯にわたって主体的に学習しようという意志を獲得するために、基礎薬学、薬科学研究の科目を配置する。
4. 医薬品や食品などの開発や品質保証に必要な知識と技術を獲得するために、衛生薬学、レギュラトリーサイエンスの科目を配置する。

教育方法

1. ディプロマ・ポリシーに掲げた資質をもつ学生を育成するために、「ステップ1: 一般教養学・基礎科学・基礎薬学の基盤強化」、「ステップ2: 創薬科学、品質保証の専門家の育成を目指した衛生薬学、レギュラトリーサイエンスの実践」のための授業科目を2年単位で段階的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を行う。
2. プレゼンテーション、SGD (Small Group Discussion) 等の機会を積極的に取り入れ、主体的に取り組む力を養成する。

評価方法

1. 学生の教育評価は、各科目のシラバスに定める成績評価の方法・基準によって評価する。
2. ディプロマ・ポリシーに掲げた資質を星薬科大学アセスメント・ポリシーに定める評価方法により評価することで、学修成果の評価を実施する。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

創薬科学科はディプロマポリシーに掲げた資質をもつ学生を、カリキュラムポリシーに基づく教育内容により育成するために、次に掲げる4つの能力と資質を有する人を求めています。

求める学生像（資質・能力）

1. 豊かな生活を送るための文化や自然に関する知識と、生命・健康を科学するための基礎学力を有する人。
2. 医薬品や食品等の開発や品質保証の専門家になるための思考力、判断力を有する人。
3. 生涯にわたって薬科学を主体的に学習しようと取り組む向上心が強い人。
4. 医薬品や食品等の開発や品質保証の専門家に必要となる知識と技術を身に付けるために、学習、研究に邁進できる人。

入学者選抜の基本方針

上記のような能力と資質要素を備えた学生を選抜するため、本学では、学校推薦型選抜及び一般選抜を実施する。学校推薦型選抜においては、基礎学力判定で1、2、4を、調査書、面接で1～4を確認する。一般選抜においては、個別試験、大学入学共通テストで1、2、4を、調査書で3を確認する。

(2) 大学院薬学研究科

3つのポリシー

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

【「薬学専攻」博士課程】

本研究科の教育課程を通して豊かな学識を養い、所定の単位を修得し、学位審査基準による博士論文の審査に合格し、大学院修了者にふさわしい以下に掲げる研究能力を有していると評価できる学生に「博士（薬学）」の学位を授与します。

1. 課題設定ができ、かつ、解決に導く能力を有していること。
2. 研究を計画的に遂行する能力を有していること。
3. 考察が的確で、発表能力（論文作成能力、口頭発表能力）を有していること。
4. グローバルな視点で研究を評価できる能力を有していること。

なお、「薬学専攻」博士課程には3つのコースが設置されているが、上記に加えてそれぞれのコースにより、以下のことも学位授与の基準とします。

（臨床・医療薬学研究コース）

薬剤師としての職能を高め、臨床薬学領域における先端の知識と技能を備えていること。

（先進薬学研究コース）

薬学研究に貢献できる能力を有していること。

（がん医療・臨床薬学研究コース）

臨床薬剤師としてチーム医療の一員として活躍できる能力を有していること。

また、本学に学位論文を提出し、その審査に合格し、かつ本学博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することが確認できた者に対しても「博士（薬学）」の学位を授与します。

【「総合薬科学専攻」修士課程】

本研究科の教育課程を通して豊かな学識を養い、所定の単位を修得し、学位審査基準による修士論文の審査に合格し、以下に掲げる専門知識と能力を有していると評価できる学生に「修士（薬科学）」の学位を授与します。

1. 研究に対する基本的な知識・技術と倫理観を身に着けていること。
2. 課題に対する調査・分析を行う能力を有していること。
3. 実験結果を考察し、まとめる力を有していること。

【「総合薬科学専攻」博士課程（後期）】

本研究科の教育課程を通して豊かな学識を養い、所定の単位を修得し、学位審査基準による博士論文の審査に合格し、大学院修了者にふさわしい以下に掲げる研究能力を有していると評価できる学生に「博士（薬科学）」の学位を授与します。

1. 課題設定ができ、かつ、解決に導く能力を有していること。
2. 研究を計画的に遂行する能力を有していること。
3. 考察が的確で、発表能力（論文作成能力、口頭発表能力）を有していること。
4. グローバルな視点で研究を評価できる能力を有していること。

また、本学に学位論文を提出し、その審査に合格し、かつ本学博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することが確認できた者に対しても「博士（薬科学）」の学位を授与します。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

【「薬学専攻」博士課程】

「薬学専攻」博士課程において学生は5つの研究領域（治療薬学研究領域、医薬品適応学研究領域、病態解析学研究領域、医薬情報科学研究領域、実践薬学領域）のいずれかに所属し、主担当指導教員の指導の下、関連分野の複数の教員による教育と研究指導を受けることとしており、豊かな学識を養うために、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施しています。なお、授業科目は講義・演習・研究の各科目を配置し、テスト、レポート、プレゼンテーション等を実施して評価をおこないます。

1. 研究課題へのアプローチ方法の違いを学ぶため、様々な研究分野を体験する科目を配置する。
2. 薬学の知識・技能の探究を行うことを目的とした講義科目を配置する。
3. 最新の専門知識を養うために、臨床現場に直結した講義を配置する。
4. 薬学研究者としての問題解決能力を育成するため、特別演習および特別研究を重点的に配置する。

【「総合薬科学専攻」修士課程】

「総合薬科学専攻」修士課程において学生は、それぞれの研究分野に所属し、教育と研究指導を受けることとしており、豊かな学識を養うために、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施しています。なお、授業科目は講義・演習・研究の各科目を配置し、テスト、レポート、プレゼンテーション等を実施して評価をおこないます。

1. 幅広い知識を吸収・育成することを目的とした講義科目を配置する。
2. プレゼンテーションについて学び、自らも演者を務める演習科目を配置する。
3. 問題解決能力を育成するため、課題研究を配置する。

【「総合薬科学専攻」博士課程（後期）】

博士課程（後期）は、修士課程の趣旨・教育を継続しますが、5つの研究領域（基盤薬学領域、機能分子薬学領域、創薬化学領域、環境保健学領域、医薬創成科学領域）のいずれかの研究領域に所属し、指導教員の指導の下、教育と研究指導を受ける体制としており、豊かな学識を養うために、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施しています。なお、授業科目は演習・研究の科目を配置し、プレゼンテーション等を実施して評価をおこないます。

1. プレゼンテーションやディスカッションにより、問題解決能力の醸成を目的とした科目を配置する。
2. 薬学研究者として実験や調査研究した事象について論文にまとめる力を育成するための科目を配置する。

■アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

【「薬学専攻」博士課程】

「薬学専攻」博士課程は薬学部「薬学科」（6年制課程）を基礎とし、医療の現場における臨床的な課題を対象とする研究領域を中心とした教育・研究を行い、臨床薬学・医療薬学研究者や専門薬剤師など高度な職能を持つ人材を育成するとともに、学部教育において臨床に係る実践的な能力を培った者に対し、先進的な基礎薬学に重点を置いた教育・研究を施し、高度の研究能力と豊かな学識を有した研究者・教育者の育成を目的としており、以下のような人材を求めています。

1. 薬学を学ぶ者としての倫理観・責任感を備えている者。
2. 探求心と向上心を持って研究に取り組める者。
3. 医療人としての自覚を持ち、社会貢献の意欲の高い者。
4. 基礎学力を有し、自己研鑽に取り組める者。

【「総合薬科学専攻」修士課程】

「総合薬科学専攻」修士課程は、薬学部「創薬科学科」（4年制課程）を基礎とし、薬の創製をはじめとする薬学領域の発展に貢献できる人材の養成、生命科学基礎研究における技術者の育成を目的としており、以下のような人材を求めています。

1. 薬学の基礎学力を有している者。
2. 知的好奇心を持ち、柔軟な発想ができる者。
3. グローバルな視点で物事に取り組める者。

【「総合薬科学専攻」博士課程（後期）】

「総合薬科学専攻」修士課程・博士課程（後期）は、薬の創製、生体との相互作用から適正使用までのすべての薬学領域で活躍する研究者・開発者として必要とされるハイレベルな研究能力と専門領域における深い学識を養うことを目標とし、生命科学基礎研

究や創薬研究に携わる革新性・創造性豊かな優れた研究者・技術者の養成を目的としており、以下のような人材を求めています。

1. 薬学を学ぶ者としての倫理観・責任感を備えている者。
2. 探求心と向上心を持って研究に取り組める者。
3. 生命科学や創薬研究に対する意欲の高い者。
4. 国際的に活躍を期待できる研究者の素養がある者。

2. 2024年度事業概要

<2024年度事業計画>

18歳人口の減少、ウクライナ情勢によるエネルギーや原材料価格の高騰及び円安進行に伴う物価上昇等により、私立大学を取りまく環境は厳しさを増している。このような厳しい環境の中においても、我々は、大学運営を滞りなく進め、大学に求められる責務を果たしていかなければならない。本学が魅力ある教育・研究を行い、競争力を維持していくためには、前例にとらわれない発想と創意工夫が求められる。困難な状況だからこそ、体制の見直しや業務の効率化、改善を達成する大きな契機になりうる。2024年度の事業計画について、教職員一人一人が問題意識を持ち、主体的に取り組むことが期待される。

1. 基本方針

- 建学の精神『世界に奉仕する人材育成の揺籃』・教育理念『親切第一』を尊重し、2022年度に定めたガバナンス・コードに沿った大学運営を行う。
- コロナ禍の経験を活かした新たな時代の大学教育へ転換（中央教育審議会）が求められる中、「星薬科大学ビジョン 2025～2030」を土台に「デジタル活用」や「いかなる災害のもとでも学びを止めない体制」（日本私立大学連盟）により「ニューノーマルにおける高等教育の姿」（教育再生実行会議）を希求する。
- 「輝く薬剤師と世界に響く研究を」を目標とし、教育力の維持・研究力の向上・ブランド力強化により一層努める。

2. 2024年度重点方針

- 大学評価委員会及び大学評価対応WGの主導の下、2024年度に受審予定の外部評価に向けた自己点検評価のPDCAに取り組む。
- 2025年4月施行の改正私立学校法に向けた対応を行う。
- 2024年度に導入する新コアカリキュラムについて、学生の学修効果を高めると同時に、教員の効率性を達成できるものの実現に向けて引き続き検討を行う。
- 薬学及び医学の潮流を意識し、今後より重要性が高まる分野において、優秀な人材の確保・教員配置を中期的に実現すべく、必要な対応に着手する。
- 業務の効率化・合理化・省力化による教育・研究時間の確保や、研究環境の改善による研究の活性化に努める。
- より多くの受験生が薬学の本質と本学のアドミッションポリシーを理解するように広報を強化、本学の求める学生像に適合する受験生の増加に努める。

- 入試広報に加え、ホームページの活用、研究成果のプレスリリース等により大学のブランド力を強化し、就職・研究費獲得・共同研究等での優位性を高める。
- 放射2号線の道路計画、非化石エネルギーへの転換計画など本学を取り巻く環境の動向も考慮しつつ、様々な想定に対応した本学の中長期的な展望について議論を深めていく。
- 本学に対する社会的ニーズを踏まえながら、学生・保護者・薬事関係者の期待に応えるべく、教育・研究活動に必要な対策をうちながら、不要不急の経費を削減するなどして長期に亘り安定した大学運営を行える財務基盤を構築していく。

3. 部門別方針

【薬学部】

- 薬学科・・・教育の質の向上

①計画

医療の高度化、多職種連携の推進などにより、薬剤師に求められる役割が増大しており、社会環境の変化に適応した質の高い薬剤師の養成に対応するためには教育の質を更に向上させる取り組みを強化することが求められている。その一方で、生命科学を広く深く追求し、理解することを本質とする創造的薬学教育を推進し、基礎研究と応用研究をともに進めることができ、イノベーションを創出できる薬剤師の育成を目指し、研究力の向上にも努める。

そのような状況の中で薬学科では、2022（令和4）年度3年生から研究室における教育システムが改正され、薬学研究実践実習がスタートした。今後実施される特別実習（卒論）指導との関連を整理して、薬学教育の質の向上及び研究力の醸成を進める。また、4年生以上のカリキュラムにおいては、FD委員会等と連携し、ディプロマ・ポリシーの達成度を検証し、更に2024（令和6）年度入学者から適用となる改訂「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に対応すべく、新カリキュラムの準備を進める。

②実績

2024（令和6）年度入学者から適用される改訂「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に対応し、新カリキュラムの実施を開始した。1・2年次には「キャリアデザイン」の授業を導入し、学生が早期から自身のキャリアについて考えることで、将来に必要な能力を段階的かつ着実に身につけられるよう配慮した。また、今後の医療人にとって重要とされる臨床薬学および情報科学技術に関する科目を強化し、実践的な教育内容の充実を図った。さらに、低学年からの薬学教育の質的向上および研究力の育成を目的として、新たに「基礎薬学教育研究部門」を設置した。この新部門と連携し、基礎実習研究部門を支援する「スチューデント・アシスタント制度」も整備し、教育・研究活動のさらなる充実に努めた。

○ 創薬科学科・・・教育の質の向上

①計画

社会環境の変化に適応した質の高い薬学の研究者の養成に対応するために、創薬科学科においても教育の質を更に向上させる取り組みを強化することが求められている。健康長寿社会の実現を支えるため、医薬品や食品等の開発・品質保証に携わる研究者の人材を育成することを目的とし、ディプロマ・ポリシー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーを変更とともに 2024 年度入学者からカリキュラムを抜本的に改正する。FD 委員会等と連携し、ディプロマ・ポリシーの達成度を検証し、カリキュラムにおいて強化すべき内容や改正すべきポイントがないかを検討し、カリキュラムにおける PDCA サイクルをまわす。加えて、薬学科との適切な交流による人的資源の有効活用を探る。

②実績

2021 年日本学術会議薬学委員会の提言に基づき、2023 年度にディプロマ・ポリシー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーを改正し、そのポリシーに沿った新カリキュラムを 2024 年度の入学生から実施した。同時に薬学科との共通講義を大幅に増やし、人的資源の有効的活用を実施した。教育プログラム更なる改善として、社会ニーズに対応する人材育成のため、低学年から将来の方向性を考えさせるような講義を新設し、積極的に産・官・学からの非常勤講師招聘を行った。

○ 薬学教育研究センター

薬学教育研究部門・・・薬剤師国家試験への対応

①計画

薬学教育研究部門を中心に、薬学科 2 年次、4 年次、6 年次に設置された各総合演習科目を通じて、学生が薬学専門科目を効果的に履修できる学習プログラムを提供する。また、これら総合演習科目の修得度に応じた学習指導により、標準修業年限内卒業率 90%以上を目指す。

さらに、薬学教育支援システムの利用等による国家試験対策により、薬剤師国家試験新卒合格率を高いレベルで維持し、ストレート合格率の上位を目指す。

②実績

薬学教育研究部門が主にマネジメントを担っている総合演習科目（薬学科 2 年「基礎薬学演習」・4 年「総合薬学演習Ⅰ」・6 年「総合薬学演習Ⅱ」）、並びに薬学教育支援システムの利用等による国家試験対策を通じて、薬学科の学生が年次に沿って効果的に履修できる体制を整備し、ディプロマポリシーの第 2 項目を達成できる薬学教育プログラムを学生に提供できた。

今年度の第 110 回薬剤師国家試験の新卒合格率は 88.19%であった。また、標準修業年限内卒業率（ストレート合格率）は 73.8%であり、私立大学薬学部内で上位を維持している。引き続き 6 年間の教育成果として、標準修業年限内卒業率の上位校であり続けることを目指していく。

2. 2024年度事業概要

<2024年度事業計画>

18歳人口の減少、ウクライナ情勢によるエネルギーや原材料価格の高騰及び円安進行に伴う物価上昇等により、私立大学を取りまく環境は厳しさを増している。このような厳しい環境の中においても、我々は、大学運営を滞りなく進め、大学に求められる責務を果たしていかなければならない。本学が魅力ある教育・研究を行い、競争力を維持していくためには、前例にとらわれない発想と創意工夫が求められる。困難な状況だからこそ、体制の見直しや業務の効率化、改善を達成する大きな契機になりうる。2024年度の事業計画について、教職員一人一人が問題意識を持ち、主体的に取り組むことが期待される。

1. 基本方針

- 建学の精神『世界に奉仕する人材育成の揺籃』・教育理念『親切第一』を尊重し、2022年度に定めたガバナンス・コードに沿った大学運営を行う。
- コロナ禍の経験を活かした新たな時代の大学教育へ転換（中央教育審議会）が求められる中、「星薬科大学ビジョン 2025～2030」を土台に「デジタル活用」や「いかなる災害のもとでも学びを止めない体制」（日本私立大学連盟）により「ニューノーマルにおける高等教育の姿」（教育再生実行会議）を希求する。
- 「輝く薬剤師と世界に響く研究を」を目標とし、教育力の維持・研究力の向上・ブランド力強化により一層努める。

2. 2024年度重点方針

- 大学評価委員会及び大学評価対応WGの主導の下、2024年度に受審予定の外部評価に向けた自己点検評価のPDCAに取り組む。
- 2025年4月施行の改正私立学校法に向けた対応を行う。
- 2024年度に導入する新コアカリキュラムについて、学生の学修効果を高めると同時に、教員の効率性を達成できるものの実現に向けて引き続き検討を行う。
- 薬学及び医学の潮流を意識し、今後より重要性が高まる分野において、優秀な人材の確保・教員配置を中期的に実現すべく、必要な対応に着手する。
- 業務の効率化・合理化・省力化による教育・研究時間の確保や、研究環境の改善による研究の活性化に努める。
- より多くの受験生が薬学の本質と本学のアドミッションポリシーを理解するように広報を強化、本学の求める学生像に適合する受験生の増加に努める。

- 入試広報に加え、ホームページの活用、研究成果のプレスリリース等により大学のブランド力を強化し、就職・研究費獲得・共同研究等での優位性を高める。
- 放射2号線の道路計画、非化石エネルギーへの転換計画など本学を取り巻く環境の動向も考慮しつつ、様々な想定に対応した本学の中長期的な展望について議論を深めていく。
- 本学に対する社会的ニーズを踏まえながら、学生・保護者・薬事関係者の期待に応えるべく、教育・研究活動に必要な対策をうちながら、不要不急の経費を削減するなどして長期に亘り安定した大学運営を行える財務基盤を構築していく。

3. 部門別方針

【薬学部】

- 薬学科・・・教育の質の向上

①計画

医療の高度化、多職種連携の推進などにより、薬剤師に求められる役割が増大しており、社会環境の変化に適応した質の高い薬剤師の養成に対応するためには教育の質を更に向上させる取り組みを強化することが求められている。その一方で、生命科学を広く深く追求し、理解することを本質とする創造的薬学教育を推進し、基礎研究と応用研究をともに進めることができ、イノベーションを創出できる薬剤師の育成を目指し、研究力の向上にも努める。

そのような状況の中で薬学科では、2022（令和4）年度3年生から研究室における教育システムが改正され、薬学研究実践実習がスタートした。今後実施される特別実習（卒論）指導との関連を整理して、薬学教育の質の向上及び研究力の醸成を進める。また、4年生以上のカリキュラムにおいては、FD委員会等と連携し、ディプロマ・ポリシーの達成度を検証し、更に2024（令和6）年度入学者から適用となる改訂「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に対応すべく、新カリキュラムの準備を進める。

②実績

2024（令和6）年度入学者から適用される改訂「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に対応し、新カリキュラムの実施を開始した。1・2年次には「キャリアデザイン」の授業を導入し、学生が早期から自身のキャリアについて考えることで、将来に必要な能力を段階的かつ着実に身につけられるよう配慮した。また、今後の医療人にとって重要とされる臨床薬学および情報科学技術に関する科目を強化し、実践的な教育内容の充実を図った。さらに、低学年からの薬学教育の質的向上および研究力の育成を目的として、新たに「基礎薬学教育研究部門」を設置した。この新部門と連携し、基礎実習研究部門を支援する「スチューデント・アシスタント制度」も整備し、教育・研究活動のさらなる充実に努めた。

○ 創薬科学科・・・教育の質の向上

①計画

社会環境の変化に適応した質の高い薬学の研究者の養成に対応するために、創薬科学科においても教育の質を更に向上させる取り組みを強化することが求められている。健康長寿社会の実現を支えるため、医薬品や食品等の開発・品質保証に携わる研究者の人材を育成することを目的とし、ディプロマ・ポリシー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーを変更とともに 2024 年度入学者からカリキュラムを抜本的に改正する。FD 委員会等と連携し、ディプロマ・ポリシーの達成度を検証し、カリキュラムにおいて強化すべき内容や改正すべきポイントがないかを検討し、カリキュラムにおける PDCA サイクルをまわす。加えて、薬学科との適切な交流による人的資源の有効活用を探る。

②実績

2021 年日本学術会議薬学委員会の提言に基づき、2023 年度にディプロマ・ポリシー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーを改正し、そのポリシーに沿った新カリキュラムを 2024 年度の入学生から実施した。同時に薬学科との共通講義を大幅に増やし、人的資源の有効的活用を実施した。教育プログラム更なる改善として、社会ニーズに対応する人材育成のため、低学年から将来の方向性を考えさせるような講義を新設し、積極的に産・官・学からの非常勤講師招聘を行った。

○ 薬学教育研究センター

薬学教育研究部門・・・薬剤師国家試験への対応

①計画

薬学教育研究部門を中心に、薬学科 2 年次、4 年次、6 年次に設置された各総合演習科目を通じて、学生が薬学専門科目を効果的に履修できる学習プログラムを提供する。また、これら総合演習科目の修得度に応じた学習指導により、標準修業年限内卒業率 90%以上を目指す。

さらに、薬学教育支援システムの利用等による国家試験対策により、薬剤師国家試験新卒合格率高いレベルで維持し、ストレート合格率の上位を目指す。

②実績

薬学教育研究部門が主にマネジメントを担っている総合演習科目（薬学科 2 年「基礎薬学演習」・4 年「総合薬学演習Ⅰ」・6 年「総合薬学演習Ⅱ」）、並びに薬学教育支援システムの利用等による国家試験対策を通じて、薬学科の学生が年次に沿って効果的に履修できる体制を整備し、ディプロマポリシーの第 2 項目を達成できる薬学教育プログラムを学生に提供できた。

今年度の第 110 回薬剤師国家試験の新卒合格率は 88.19%であった。また、標準修業年限内卒業率（ストレート合格率）は 73.8%であり、私立大学薬学部内で上位を維持している。引き続き 6 年間の教育成果として、標準修業年限内卒業率の上位校であり続けることを目指していく。

実務教育研究部門・・・実務教育の充実

①計画

実務教育研究部門を強化し、専門病院、大学病院、総合病院、保険薬局等との包括的連携関係を構築することで、現場で役に立つ薬剤師の輩出を目指す。また、連携施設との人事交流を深め、最新の薬物治療を教員自身も学ぶ環境を整えることで、実臨床を想定した良質な臨床教育を持続的に提供可能な体制とする。

②実績

連携協定を締結しているがん研有明病院とは定期的に意見交換を行い、教育・研究の連携強化に努めた。また、新たに日本赤十字社医療センターとの連携協定の締結に向けて準備を進めた。さらに、国立国際医療研究センター病院、埼玉大学総合医療センター病院、聖路加国際病院等において教員が最新の薬物療法を学ぶ環境を整え、質の高い臨床教育を継続的に実施できる体制を構築した。

基礎実習研究部門・・・新カリキュラム対応検討

①計画

課題発見能力および問題解決能力の基礎となるデータ集計と解析能力を高めるため、化学の原理の理解深めるとともに、器具や機器の扱い方を身につけ、定量解析と定性解析を中心に実験を行い、図やグラフの作成、さらにはこれらのデータの解釈の習得を目指す。また、新カリキュラムに対応した実習内容等を検討する。

②実績

1年生、2年生の基礎実習を行った後、60分での技能試験、90分での筆記試験、レポート提出を課し、技能については結果の制度について評価、筆記試験は得点による評価、レポートは記載内容のチェックによる評価を行った。90%の学生は正確な実験を行う事ができ、求めるべきグラフの作成を修得することができた。10%の学生についてはフォローアップを行い、概ね求めるべき技能を修得することができた。筆記試験の結果より、問題解決に関する基礎知識の修得は95%以上の学生で達成できたが、残り5%については十分とは言えないため、補講を通じて修得に向けた指導を行った。

薬剤師生涯学習支援室・・・オンライン講義の推進、著作権の検証体制の構築

①計画

(1) オンライン講義の推進

生涯研修認定制度について、E-learningによる研修会の拡充とプログラムの充実に努めるとともに、地域との連携も含めた生涯教育を推進する。

(2) 著作権の検証体制の構築（副担当）

関係部署と連携し、遠隔授業の実施に対応した著作権検証のガイドラインの策定、学内体制の整備、外部委託の検討を行う。

②実績

- ・学部教育および外部講座連携プロジェクトに対し、複数の講座を提供し、大学の教育活動の充実を図った。
- ・薬剤師認定制度認証機構（CPC）に対し、第3回プロバイダー更新申請を行い、引き続き認定を維持。また、CPCからは高評価を得たことを、HPにて広報した。
- ・CPC総会およびCAPEP協議会に参加し、制度動向や他機関の取組みに関する最新情報を収集した。
- ・外部委員を含む評価委員会を実施し、運営状況に対する意見を得つつ、生涯学習支援室の健全な運営に努めた。
- ・企画委員会を開催し、委員による講座ニーズの分析や検討を通じて、足りていない分野や受講者から要望の多いテーマを把握し、旧講座のリニューアルを含め新規講座を約20本追加した。
- ・7月および翌年3月には、星薬科大学同窓会と共催し、会員向け研修講座を開催。
- ・星薬祭では、地域住民向け薬と健康の週間の企画として「くすりと健康フェア2024」を品川区と共催し、「肌年齢チェック」等の啓発ブースを設置、約800人が参加、地域交流を図った。

【大学院薬学研究科】・・・研究人材の育成・確保、大学院の活性化

①計画

学内の研究資源を効率的に活用できる体制を整備・強化し、教員の研究力の向上を目指すとともに、文部科学省研究設備補助金、研究助成、共同研究の公募等への申請を通じ研究環境を整え、教員の研究人材としての育成に努める。

大学院学生を増やし、研究人材の確保と育成に努め、大学院の活性化を進める。また、入試制度の改善をはじめ、学位審査の方法等について検証し、大学院として求められる質の確保と魅力ある研究組織の構築を進め、国内私立薬系大学をリードする研究型大学を目指す。

②実績

研究人材の確保および教員による研究人材の育成に努めた結果、博士課程における入学者数の増加を達成した。大学院教育の高度化を図るため、新たな論文構成要件に基づく審査制度や年次発表会の実施内容を一部見直し、円滑に運用を行った。また、研究プロジェクト奨学金制度の継続的な運用を通じて、大学院生の研究活動を支援し、その育成に努めた。

【図書館】・・・デジタルトランスフォーメーション化に対応するために、データサイエンス関係資料の充実化、情報資源の持続的な提供の維持、著作権検証体制の構築（主担当）

①計画

医療の高度化、多職種連携の推進により、薬剤師に求められる役割が更に増大していく中において、本学がDX(デジタルトランスフォーメーション)等社会環境の

変化に対応できる薬剤師を養成し、魅力ある教育・研究を行う支援として、以下の業務を実施する。

データサイエンス、プログラム言語、統計解析等の DX 分野の資料の更なる充実を図り、DX に対応できる学生の育成に向けた環境作りを行う。

電子ジャーナルの価格高騰が進む一方で、図書館予算の増加が見込めない中、研究に必須な電子ジャーナルの継続的な購読計画を実行する。具体的には、大学内の利用傾向や頻度等のデータを収集・分析を行い、研究に必須なコアジャーナルを選出し、その維持を厳守する購読計画を実行する。また、コアジャーナル以外のジャーナルについては、コアジャーナル以外の電子ジャーナル予算を PPV (Pay Per View) 予算を割り当て、研究に必要な情報を不足なく提供する。

その他、本学における著作権主管部署として、授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS) への対応を継続して行う。

②実績

継続して電子資料（電子ブック、電子ジャーナル、データベース）の充実と学内外からのアクセスの確保を行った。また、資料の利用促進を図るため「情報リテラシーテキスト」を作成し、教職員・学生に WebClass を通じて公開した。

電子ジャーナル価格高騰に対し、内閣府から「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針」が打ち出され、2025 年度から新たに公募する競争的研究費の受給者に対し、論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等に掲載が求められることとなった。それに対応できる体制づくりを開始し、「星薬科大学オープンアクセスポリシー」の策定に続き、WebClass に「オープンアクセス支援」のコースを作成し、図書館 HP リニューアルに当たり、研究支援のページを充実させるなど、体制整備を行った。

授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS) からの授業目的調査に対応し、2024 年 7 月の薬学部の講義について、著作権法第 35 条に該当する他人の著作物利用報告 335 件を報告した。

老朽化した図書館システムのバージョンアップを実施し、併せて過去データやコードの整理を行うとともに、OPAC に新機能を追加し、図書館資料へのアクセシビリティを向上させた。

【医薬品化学研究所】・・・研究推進体制の強化 叶医薬品化学研究所長

①計画

医薬品化学研究所は、「医薬に関する基礎とその応用研究ならびに教育を行うこと」を目的として創設された本学最初の研究所としての役割を認識し、質の高い研究の推進と優秀な学生・研究者の輩出に努めるとともに、産官学との連携および共同研究体制の強化を図る。また、研究成果を広く社会に発信することにより、研究所のビジビリティの向上を推進する。

②実績

昨年度に引き続き、所内の各研究室の設備・施設の修理・更新を行い、安全かつ効率的に研究が実施・推進できる体制を整えた。また、研究室単位で、産官学と連携した研究推進体制を強化・確立した。

【先端生命科学研究所】・・・研究推進体制の強化

①計画

先端生命科学研究所は、本学の研究型大学としての発展に寄与する「全学に関わられた研究所」としての役割を維持し、学内共同研究の推進、学生参画、重点研究プロジェクト実施を進め、研究能力を有する優秀な学生の輩出、高品質な研究成果の発信、外部資金獲得などをさらに強化する。

②実績

研究推進体制の強化を図り、2023年度に続き博士課程在籍学生の日本学術振興会特別研究員-DCの新規採択、高品質な研究成果の発信、外部資金獲得などを実現した。

【薬用植物園】・・・情報公開の推進、環境整備

①計画

ホームページ、オンラインによる薬用植物園の情報公開について継続的に検討する。薬用植物見学の機会を広く提供するほか、生態系の保全確保とともに利便性、安全性確保、教育環境に配慮した環境整備を図る。また、地域連携・協力を通して、社会貢献を果たす。

②実績

薬用植物園では、年2回の見学会を開催し、地域社会や学生に対する薬用植物への理解促進を図った。また、ホームページをリニューアルし、薬用植物園の情報を充実させることで、本学における薬用植物に関する情報発信を強化した。さらに、園内通路のアスファルト舗装工事を実施し、来園者の利便性および安全性の向上に努めた。

【動物センター】・・・8号館の効率的な活用、外部検証の受検に向けた対応

①計画

研究活動の重要性に鑑み、先端生命科学研究所所属の研究員・教員が中心になり、8号館3階実験室の効率的な活用を行う。また、研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（文部科学省）に基づき、公益社団法人日本実験動物学会が実施する動物実験に関する外部検証の受検に向け、学内規程、飼養保管施設の安全管理等について整備する。

②実績

8号館3階にエピゲノム創薬研究室が開設され、8号館共同実験室の効率的な活用のみならず、本学における研究活動が活性化している。

動物実験委員会では、公益社団法人日本実験動物学会が実施する動物実験に関する外部検証の受験に向けて事前準備を進めている。また、昨年度に続き「動物実験の外部検証 動物実験の外部検証の実施に向けた事前説明会(日本実験動物学会主催、文部科学省後援)」に本学動物実験委員会担当事務1名、動物センター委員会担当事務1名が参加した。

【機器センター】・・・装置導入プロセスの可視化による好循環の醸成、利用情報提供環境の維持改良

①計画

前年度に引き続き、共同研究施設・機器管理委員会を中心に、共同利用機器に関する予算申請および私学助成等への申請プロセスの可視化を継続する。これによって研究設備の助成獲得に必要な全学的な協力体制を維持し、必要な設備を適宜更新・導入できる好循環を作り出せるよう努める。

また、2022年度に機器センターウェブサイト構築した、共同利用装置の利用手引きや各装置の利用規程等のダウンロードページを適宜更新・増補し、共同利用機器の利用希望者が、必要な情報を容易に得られる環境の維持改良に努める。

②実績

前年度に引き続き、共通機器の維持管理の根幹となる維持管理費用について教員および事務各部門と情報交換を行ない、私学助成(研究設備等整備費、経常費一般/特別補助)を含めた収支全体の把握、および、それに基づく利用料徴収体系の変更計画立案を行った。立案した変更計画については予算ヒアリングの際に説明・提案を行い、実施の了承を得た。また、近年文部科学省は研究設備・機器の共用促進を重視しており、私学助成の評価項目にも「学外機関との共同利用の予定」が含まれている。このため、学外者が本学機器を利用するための体制をイノベーションセンターと協働して、学外利用者の受け入れを継続して行った。

【イノベーションセンター】・・・外部資金の獲得、産官学連携、大学間連携、国際交流、地域貢献

①計画

(1) 外部資金の獲得(主担当)

総務部と連携の上、公的競争的資金の獲得について、まずは積極的な申請を推進する。科学研究費助成事業については、常に採択率30%以上を目指し、情報収集を含め、研究基盤を強化する。また、企業との共同研究、受託研究を強化し、研究資金の獲得に取り組む。

(2) 産官学連携

産官学連携を推進するため、本学教員の研究成果の情報発信を積極的に行うとともに教育研究の活性化等を図り、共同研究等の件数と研究費獲得の増加に取り組む。特に国立がん研究センター、理化学研究所など公的研究機関との連携を積極的に推進する。

(3) 大学間連携

学術交流協定等を締結している山梨大学、電気通信大学、慶應義塾大学、順天堂大学、東京慈恵会医科大学等との連携を推進する。特に URA が媒体となり異分野融合が想定される医薬工連携を積極的に推進する。

(4) 国際交流

学術交流協定締結校を中心とした海外の教育研究機関との連携を強化し、質の高い教育と研究に発展させる。また、これらの成果を積極的に発信することで、世界の中での本学のビジビリティを向上させる。

(5) 地域貢献

公開講座の開催を目指し、品川区との地域連携をはじめとして、オンライン公開講座や地域社会との連携と協力を通して、本学の教育・研究を活かした社会貢献を推進する。

②実績

(1) 外部資金の獲得（主担当）

イノベーションセンターを中心に公的競争的資金、研究資金の獲得支援を実施した。科学研究費助成事業の 2024 年度の新規申請の採択率は 39% (2023 年度は 28%) であった。また、公募、審査、採択の過程を経て獲得した競争的研究資金は、新規・継続を含め 83 件（総額 462,161 千円）を獲得した。（参考：2023 年度は 59 件、総額 355,488 千円）

なお、次年度の科学研究費助成事業の獲得を支援するため、「星薬科大学チャレンジ研究費」を学内公募し、2024 年度は 4 件の支援を行い 2 件の採択に至った。

(2) 産官学連携

本学のプレゼンスの向上と研究成果の社会還元を促進するため、「オープンイノベーションによるより良い社会を目指して」と題して、シンポジウムを 6 月に開催した。

2024 年度に企業から受託した新規受託研究契約数は 4 件（総額 8,084 千円）、また、企業との新規共同研究契約数は 12 件（総額 24,370 千円）であった。

さらに、薬学系・工学系等の大学による優れた研究成果や発明について、藤田医科大学を拠点とする「先端医療開発コンソーシアム」(C-DAM) からの支援を受けるため、参加登録を行った。

(3) 大学間連携

学術交流協定等を締結している大学等との共同研究を推進し、本学の優れた研究プロジェクトを支援するため、「星薬科大学大学間共同プロジェクト研究費」を学内公募し、2024 年度は新規 3 件、継続 1 件のプロジェクトを決定した。また、電気通信大学及び順天堂大学との共催で、異分野融合に向けた領域探査テーマ「DATA～データが切り拓くヘルスケアイノベーションとその実践～」と題して、第 6 回三大学合同フォーラムを 3 月に実施した。

(4) 国際交流

昨年度に引き続き、国際学術交流協定締結校との関係強化を図った。本年度はタイ王国・チュラロンコーン大学の薬学部と理学部を訪問し、情報交換を行うことで、相互理解を深め、担当者間での関係構築に成功した。また、本学学生の留学、協定締結校からの学生の受け入れ、留学生および外国人研究者を囲む学内でのイベントなど、国際学術交流を活発に行った。国際交流に関する HP (<https://www.hoshi.ac.jp/kyoiku/kokusaikouryuu/>) を更に充実させ、本学 SNS を活用することで、学内や本学志願者に対する国際学術交流活動のビジビリティを向上させた。

(5) 地域貢献

本学では公開講座の一環として、品川区との共催により、薬用植物園における公開講座を年 2 回開催した。これに合わせて、本学学生が来園者への案内やアトラクションの運営を行い、地域との交流を深めた。さらに、立正大学との共催（品川区後援）により、小学生を対象とした植物園イベントを 2 回開催し、地域の学びの場としての機能を強化した。これらのイベントでは、講演会やワークショップを通じて、子どもたちに薬用植物への関心を育む機会を提供した。

【環境保全センター】・・・廃棄物施設の整備

①計画

研究活動から発生する廃棄物を安全に屋内で保管できる廃棄物施設の整備を検討する。更に、研究や学内活動に伴って生じる廃棄物（一般ごみ、試薬、機器類など）の廃棄ルールについて、学生等に分かり易く周知できる場の構築を行う。また、化学物質の流出を防止するため、老朽化した廃棄物施設の整備計画を管財部と共同で検討し、計画に基づく整備を実施することで大学における安全衛生の質的向上に貢献する。

②実績

情報公開について、管財部と共同して作成した掲載データを準備し、本学ホームページのリニューアルに合わせ「環境への取り組み (<https://www.hoshi.ac.jp/gaiyou/johokaiji/environmental/>)」として公開した。また、廃棄物の不適切廃棄について、発見後直ちに、教職員、大学院生及び学部学生に周知し、周辺環境の保全及び健康の維持のために適正な廃棄について改めて周知した。さらに、今年度は近年新設した中和槽に対する東京都の査察に対して、本学の排水水質管理状況を報告し、適正であることを確認いただいたことから、今後も継続して適正管理を行う。

【IR 室】・・・教育の質の向上

①計画

本学の教育・研究の活性化及び大学運営の改善等に資する政策提言の機能を果たすため、以下を目標に準備を行う。

- (1) 本学における教育・研究に関する学内外の諸情報の収集・分析
- (2) 学生の学修動向、教育の成果等に関する調査の実施及び分析
- (3) 情報の提供による政策形成の支援
- (4) その他、本学の教育・研究活動の活性化に関する事業の企画・推進

②実績

2018年度～2024年度の入学試験結果（アドミッションオフィス）、2018年度～2024年度の学内成績、進級判定資料（教務部）、2018年度～2024年度のプレイスメントテスト結果（教務部）、2014年度～2024年度国家試験合否結果（教務部）、2018年度～2024年度の就職先情報（学生支援部）、2018年度～2023年度のPROGテスト結果（IR室）を収集し、学籍番号で紐づけしてデータの統合を行った。入試結果と最終学年のGPAとの比較、入試結果と国家試験結果について解析した結果、入試制度別にGPAの差は認められなかったが、入試結果と国家試験結果については、入学時の現役と浪人との間に差が認められ、年経過に伴い浪人入学の学生の国家試験合格率の低下が著しいことが認められた。また、プレイスメントテストの結果から、入試制度による学力の大きな違いは認められず、いずれの方式でも高い学力の学生が入学している事が明らかとなった。今後、入学後の成績と国家試験との合否について調査し、国家試験合格率の向上に向けて活用できるよう検討する予定である。

【保健管理センター】・・・体調不良者の対応、感染症対策、保健指導・健康教育、学生相談

①計画

保健管理センターでは、学生、職員が心身ともに健康に就学、就労することを支援する目的で、健康診断、保健指導、学生相談を行っている。

(1) 体調不良者の対応

限られた人材資源の中で適切な対応が必要とされる。継続的に対応方法を更新し、周知を行う。

(2) 感染症対策

各種感染症に対する予防接種を勧奨し、学内での流行による就学、就労の影響を未然に防ぐ。感染症罹患者については、科学的根拠をもとに、十分に学生、職員の理解をいただきながら対応することを周知し、公平な対応を行う。

(3) 保健指導・健康教育

保健管理センター便りとして、定期的に健康増進、疾病予防に関する情報を発信する。

(4) 学生相談

学生相談室では非常勤の精神科医師、臨床心理士による相談を、学生、職員を対象に受け付けている。学生生活上の悩み、職員の指導上の悩みなどを整理し、解決に向けた提案を行う。また、メンタルヘルスに関する情報を学生等に定期的に発信する。

②実績

外傷、体調不良者の利用が増えており、休養室の利用者が増加した。体調不良者について初期対応ののち、場合により医療機関に繋げた。麻疹等の感染症に対する予防接種の勧奨を行うとともに、実務実習部門と感染症抗体価結果の情報共有を図った。毎月1、2回、けがの応急処置、熱中症、メンタルヘルスなどの健康に関する話題について学生に対して「保健管理センターNEWS」をメールで配信し、新星館デジタルサイネージにも掲載してきた。学生、職員の健康診断を企画、実施した。2024年度より学生健康診断結果については、STARTを利用してWEBで結果を本人、保護者がみられるように変更した。再検査等を要する学生、職員に対して、個別に受診勧奨、紹介状の発行を行った。学生相談室の案内をポスター、あるいは名刺サイズの利用案内として作成し、掲示板、トイレに設置して周知を図った。

【FD委員会】・・・教育の質の向上

①計画

学修成果や教育効果を最大化するためには、教員の能力向上が不可欠であり、本学の教育理念やディプロマ・ポリシーを踏まえ、ファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的かつ体系的に実施することが重要である。

このためにFD委員会では、大学の教員に求められる基礎的な知識・技能や望ましい資質・能力を身に付けさせるためのFDに加えて、最新の薬学教育に関連した講演会(必要に応じてワークショップ)を開催し、臨床現場や医療を取り巻く環境の変化を理解することにより、本学教員の教育に対する意識を高め、教育能力の更なる向上を目指す。なお、実施にあたっては、オンライン等を積極的に活用する。

②実績

前期・後期それぞれにおいて、IR室と協力して「授業評価アンケート」を実施し、その結果を教授会に報告するとともに、集計データをHPで公開した。

個々の教員には「授業評価アンケート」に対するコメントシートの作成を求め、学生の回答項目についての自身の評価と今後の授業にどのように活かすかを記載してもらうこととした。さらに、「授業評価アンケート」の結果を得点化し、ベストレクチャー並びに優秀講義の選定・表彰を実施し、教員の教育能力の向上・授業改善の促進の一助とした。

FD実施方針に基づいた「新採用教員に対する研修」を検討し、1月以降の採用者に実施した。

また、以下のワークショップを開催し、教員の能力の向上を図った。

■生成AIを活用したFDワークショップ

日時：2025年2月12日(水)14:30~16:40

場所：ラーニングコモンズ(新星館B1)

講演者：成田 周平(株式会社FRONTEO KIBITソリューション推進統括部)

【総務部】・・・自己点検評価、寄附行為改正、人事評価制度の改善、業務の効率化・合理化、外部資金の獲得、ホームページの効果的な運営、規程集のシステムの整備

①計画

(1) 自己点検評価の実施

大学評価委員会及び大学評価対応 WG の主導の下、2024 年度に受審予定の外部評価（大学基準協会・薬学教育評価機構）に適切に対応する。また、自己点検評価の PDCA に取り組む。

(2) 寄附行為の改正

2025 年 4 月 1 日に施行される「私立学校法の一部を改正する法律」に基づき、寄附行為の改正を的確に行う。

(3) 人事評価制度の改善

人事評価制度について、PDCA サイクルを回しながら引き続き改善と着実な運用を図る。また、人材育成のため、関係部署と連携の上、SD 研修を計画的に実施する。

(4) 業務の効率化・合理化

業務全般について、前例にとらわれず、効率化・合理化を図る。特に稟議・決裁手続について、ペーパーレス化に取り組む。また、文書管理の合理化を推進する。

(5) 外部資金の獲得（副担当）

イノベーションセンターと連携の上、公的競争的資金を獲得すべく、積極的な申請を推進、実施する。科学研究費助成事業については、採択率 30% 以上を獲得すべく、情報収集を含め、研究基盤を強化する。また、企業との共同研究、受託研究を強化し、研究資金の獲得に取り組む。

(6) ホームページの効果的な運営

関係部署と連携し、本学の特色や各種情報を効果的かつ迅速に発信することに取り組む。

(7) 規程集のシステムの整備

規程の検索のしやすさの改善、更新の効率化等を図るため、規程集のシステムの整備に取り組む。

(8) 各種会議の適切な運営

事務連絡会、教授会、理事会等、総務部所管の各種会議について、適切な運営を行う。併せて、効率的な運営についても取り組む。

(9) 人事・給与業務の適切な遂行

職員の採用、労務管理、給与計算等の業務について、法令及び学内規程に基づき適切な対応を行う。併せて、人事・給与業務の合理化についても取り組む。

②実績

(1) 自己点検評価の実施

大学評価委員会及び大学評価対応 WG の主導の下、外部評価（大学基準協会・

薬学教育評価機構)の受審に的確に対応し、2025年3月に最終評価結果を受けた。

(2) 寄附行為の改正

2025年4月1日に施行される「私立学校法の一部を改正する法律」に基づき、寄附行為の改正を的確に行い、2025年3月7日付で文部科学省の認可を得た。また、併せて、寄附行為施行細則の改正等を行った。

(3) 人事評価制度の改善

人事評価制度について、PDCAサイクルを回しながら引き続き改善と着実な運用を図った。また、人材育成のため、関係部署と連携の上、SD研修を計画的に実施した。2024年度は情報セキュリティ研修を実施した。

(4) 業務の効率化・合理化

業務全般について、前例にとらわれず、効率化・合理化を図った。2024年度は、押印願手続を見直し、業務の効率化を実現した。また、施設利用願手続について、利用願用紙を廃止し、システム上で申請できるように見直した(2025年4月1日施行)。

(5) 外部資金の獲得(副担当)

イノベーションセンターと連携の上、公的競争的資金を獲得すべく、申請を推進した。また、経常費補助金の増額を目指し、申請要件の充足をはじめとする必要な取り組みを行った。さらに、関係部署と連携の上、修学支援基金に対するインターネットによる募金体制を整備し、2024年度から募金を開始した。

(6) ホームページの効果的な運営

関係部署と連携し、ホームページを継続的に更新し、本学の特色や各種情報を効果的かつ迅速に発信することに取り組んだ。また、SNSを積極的に活用し、情報発信を行った。

(7) 規程集のシステムの整備

規程の検索のしやすさの改善、更新の効率化等を図るため、規程集のシステムの整備を検討した。また、規程の迅速な更新を図った。

(8) 各種会議の適切な運営

事務連絡会、教授会、理事会等、総務部所管の各種会議について、適切な運営を行った。併せて、効率的な運営についても取り組んだ。

(9) 人事・給与業務の適切な遂行

職員の採用、労務管理、給与計算等の業務について、法令及び学内規程に基づき適切な対応を行った。併せて、人事・給与業務の合理化についても取り組んだ。

【管財部】・・・安全・防災対策の推進、IT環境整備、情報セキュリティ対策の推進、主要建物の中長期修繕計画策定と計画修繕、キャンパス内スペースの有効利用、廃棄物施設、予算管理システム運営

①計画

(1) 安全・防災対策の推進

首都直下型地震、水害等の発生を想定し、対応マニュアル、連絡網等の整備、定期的な防災訓練等を実施する。マスク等の備蓄品については、品質や適正な備蓄量等を十分に検討すると共に、備蓄品の見直しを実施し、現状に即した備蓄品を調達する。また、地域住民への災害時支援体制を整備する。

加えて、年2回実施している作業環境測定について、教員及び学生等の健康面を考慮し、年1回実施している化学物質調査の結果を踏まえ、測定研究室を漏れなく実施することを検討する。

(2) IT環境整備

進んだIT環境を整備することで、受験生および学生にとって魅力的な大学を目指す。

学生サービス向上の観点で、24時間365日対応可能なサービスを拡充し、いつでも学修、研究できる環境を整える。授業のライブ配信及びオンデマンド配信については、その活用方法や運用方法について検討の上、改善を図る。

無線LAN環境は、より多彩な利用用途に応えられるよう整備、拡充する。

パソコン教室は、授業等での利便性の向上を目的として、整備する。

教育、研究、事務のBCPといった切り口から、本学のあるべき姿を具体化したITシステムの将来構成について、IT中長期計画に沿ってシステムを調達・運用していく。

(3) 情報セキュリティ対策の推進

本学情報セキュリティポリシー規程により構築した情報セキュリティ体制の元、CISO（情報セキュリティ責任者）をリーダーとして、本学に適合する情報セキュリティのさらなる改善を検討し、各々の課題について対策を強化していく。

E-learningを活用する等により、教職員の情報セキュリティに関するレベルアップを図る

(4) 主要建物の中長期修繕計画策定と計画修繕

新星館、第二新館、本館、医薬品化学研究所をはじめとするキャンパス内の主要建物の中長期修繕計画を策定し、老朽化した電気設備、空調設備、給排水衛生設備の機器の更新、建物の外装、防水、塗装等の更新を計画的に行う。

計画更新・修繕にあたっては、高効率機器の採用、照明のLED化等によりエネルギーの削減、CO2排出量の削減を行う。

(5) キャンパス内スペースの有効利用

第二新館のRIセンター廃止後のスペース利用、ならびに新星館の既存講義室の大教室化について検討、要望の取り纏めを行い、限られたスペースの有効利用と適正なコストでの改修を行う。

(6) 廃棄物施設

化学物質の流出を防止するため、老朽化した廃棄物施設の整備計画を環境保全センターと共同で検討し、計画に基づく整備を実施することで大学における安全衛生の質的向上に貢献する。

(7) 予算管理システムの運営

2022 年度に運用を開始した Web 予算管理システムおよび報告書作成システムを活用し、予算管理の精度、利便性の向上、業務効率化を図る。

②実績

(1) 安全・防災対策の推進

- ・防災備蓄品に関して、消費期限が迫った飲料水及び非常食の入替えを行うとともに、構内に避難場所を求めて来る地域住民にも提供できるよう毛布の備蓄数量の追加を行った。
- ・また、労働安全衛生法第六十五条の規定に基づく作業環境測定を実施する研究室等を 23 研究室から 27 研究室（4 研究室増）へ拡大した。

(2) IT 環境整備

- ・24 時間 365 日対応可能な教育環境の整備
学生ポータル START や LMS の WebClass、その他の基幹サービスについて、瞬停時や計画停電時も安定運用可能な体制を整備。引き続き、AI 型 LINE 学生 FAQ チャットボットにより、学生の質問に 24 時間 365 日対応した。
- ・授業の自動収録システムの導入
授業の収録を教員が容易に行えるよう、教室に自動収録システムを導入。収録予約は情報システム係に依頼するだけで済み、教員の負担を軽減。録画データはオンデマンド配信用に自動で保存され、学生のフォローアップに活用するなど、様々な用途で利用されている。
- ・無線 LAN 環境の拡充
アクティブラーニング型教室や教室等における無線アクセスポイントの増設、増強を実施。より多様な授業スタイルに対応可能な通信環境を提供した。
- ・パソコン教室の整備
パソコン教室をアクティブラーニング対応型に改修。可動式机・椅子への変更、インテリジェンス・大型モニタ設置により、グループワークや発表を伴う授業に対応可能とした。
- ・IT 中長期計画に基づくシステムの調達・運用
教育・研究・事務それぞれの業務継続計画（BCP）を念頭に置き、教務基幹システム、ファイルサーバ、バックアップサーバなどについて、クラウド型システムの導入を段階的に進めた。また、独立していた Web シラバスについて、学生ポータル START に統合し、事務効率化を高めた。

(3) 情報セキュリティ対策の推進

- ・体制の強化と見直し
情報セキュリティポリシーに基づく体制の下、CISO（情報セキュリティ責任者）を中心に全学的な情報管理体制を見直した。
- ・教職員のリテラシー向上
教職員全員を対象に、E-learning による情報セキュリティ研修を実施。研修内容も、パスワード管理・標的型メール・クラウド利用時の注意点など、実

務に即した構成とした。

- ・メールセキュリティ対策の強化

メールアカウントの二段階認証の義務化を段階的に進め、特に個人情報を扱う教職員については早期に適用を促した。また、メールセキュリティ強化策として、メールのセキュアダウンロード機能を教職員に段階的に導入。添付ファイルの誤送信や外部流出リスクを低減。あわせて、疑似攻撃メール訓練を実施し、メール経由の標的型攻撃に対するリスク意識を向上させた。

(4) 主要建物の中長期修繕計画策定と計画修繕

- ・主要建物の中長期修繕計画を取りまとめ、予算申請に活用し計画修繕のPDCAサイクルの運用を開始した。
- ・計画修繕として実施した大型案件としては、新星館4階空調機更新工事、新星館屋上動力盤更新工事、本館1階・第二新館4階トイレ改修工事、構内道路アスファルト舗装更新工事を実施した。
- ・エネルギーの削減、CO2排出削減を目的として、新星館4・5階照明器具LED化工事を実施した。

(5) キャンパス内スペースの有効利用

- ・要望を取りまとめた結果、第二新館のRIセンター廃止後のスペース利用は直ちに実施せず、利用方法と改修時期を再検討することとなった。
- ・新星館の既存講義室の大教室化については当面は実施を見送った。

(6) 廃棄物施設

- ・老朽化し偏在して分かりにくくなっている廃棄物倉庫を、衛生的で近年の異常気象による風水害にも耐え得る堅固で耐久性のある廃棄物倉庫として建て替えることを前提とした議論を廃棄物対策委員会へ依頼するとともに、前年度から引き続き検討課題とした。

(7) 予算管理システムの運営

Dr. Budget、Dr. Reportsともに大きなトラブルなく安定した運用を継続できた。運用する中で出てきた要望や変更に対応することで、より教職員および経理部における事務作業の効率化を実現できた。

2024年度は以下のカスタマイズおよび更新を行った。

- ・経理部の会計システムに文字数の制限があることから、入力文字数を超えるとハイライトで示す機能の追加
- ・振込口座を統合したため、使用不可にした業者を使用する場合、過去参照でコピーした際に保存時にエラーが出るようにする機能の追加
- ・執行権の変更による稟議書の様式の変更、マニュアルの更新など

その他 Amazon に対しても管財部が管理者なこともあり、毎月の支払い内訳通知、置き配停止の設定依頼、適宜トラブル対応を行った。

【経理部】・・・2024年度事業計画に掲げる諸施策の目標達成を図るための財政整備、経理事務における法令改正など新しい動きに対する適切な対応と効

率化の実現

①計画

(1) 2024年度事業計画に掲げる諸施策の目標達成を図るための財政整備

2024年度事業計画に掲げる大学全体の諸施策の目標達成を図るため、予算の優先順位を明確にし、従来からの予算項目について費用対効果の視点から十分に精査するとともに今後の展開を見据えた予算編成を着実に進め、健全な財政状況を確保する。

(2) 経理事務における法令改正など新しい動きに対する適切な対応と効率化の実現

消費税インボイス制度（2023年10月施行）および電子帳簿保存法（2024年1月施行）などに引き続き適切に対応しつつ、学校法人会計基準の改正（2025年度から施行予定）を適宜フォローして、関係部署と連携し学内経理事務の効率化に向けた整備方針を検討し、実現できるものから順次実施していく。

②実績

(1) 2024年度事業計画に掲げる諸施策の目標達成を図るための財政整備

教育研究環境の積極的な整備など2024年度事業計画に掲げた大学全体の諸施策について目標を達成するための予算編成を着実に進め、2024年度は582百万円の経常収支差額を確保するなど健全な財務状況を確保している。

(2) 経理事務における法令改正など新しい動きに対する適切な対応と効率化の実現

電子帳簿保存法については学内経理事務の効率化のみならず、関係部署との連携も必要なことから監査法人とも相談し、将来的な導入に向けて検討している。また2025年度から施行される学校法人会計基準の改正については規程の整備を進めるなど対応を行っている。

【教務部】・・・新カリキュラムの検討、外部評価への対応

①計画

(1) 新カリキュラムの検討

2024（令和6）年度入学者から改訂「薬学教育モデル・コアカリキュラム」が適用されることとなり、それに対応した本学の新カリキュラムによる教育開始開始する。カリキュラムの移行は年次更新となるため、2024年度は1年生のみが新カリキュラムとなるが、先を見据えて新カリキュラムを軌道に乗せる。

(2) 外部評価への対応

2024（令和6）年度が受審年度となるため、評価書提出までの最終チェック及び実地に備えた準備に備える。

(3) コロナ禍を経た情報提供体制の確立

新型コロナウイルス感染症の経験をマイナスと捉えるのではなく、プラスに転化することを考え、オンラインを活用した学生への情報提供の方策の確立を目指す。授業は対面実施が原則となり、学生はキャンパスで多くの時間を過ごすことが当たり前になると見込まれるが、教務部が学生に提供する情報については、オンラインでの提供へとシフトすることを目指す。

②実績

(1) 新カリキュラムの検討

2024（令和6）年度1年生から改訂「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」に適用した新カリキュラムによる教育が開始となった。「数学」、「物理」、「化学」、「生物」といった基礎科目を一部統合し、スリム化を図るとともに、基礎科目から専門科目へのスムーズな橋渡しのために「医療薬学導入科目」、「臨床薬学導入科目」、「衛生薬学導入科目」をそれぞれ低学年に設定したカリキュラムとなっている。学年進行でカリキュラムが移行するため、完成には、薬学科は6年、創薬科学科は4年かかることになるが、新たな専門科目が登場する上級学年に対して、先々を見据えた対応を心がける必要がある。

(2) 外部評価への対応

2024（令和6）年度に「大学基準協会」と「薬学教育評価機構」の両方の実地調査を受けたが、いずれの報告書においても教務部が担当する範囲は広範囲であった。報告書の作成においては、一部時間のかかった部分もあったが、周囲と協力し、どちらも滞りなく作成できた。また、実地調査の際のエビデンスの準備も的確に対応できた。

(3) コロナ禍を経た情報提供体制の確立

新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえて、学生への情報提供にオンラインシステムを活用する実績をあげてきた。具体的にはSTARTを活用した試験結果の個別通知、WebClassによる受講登録結果の提示など、これまで紙で掲示板等に貼りだしていたものをここ数年の間にオンラインによる提示へと変更し、メールで学生に情報提示した旨を通知するなど、一定の情報提供体制が確立できたと言える。

【学生支援部】・・・高等教育の修学支援新制度への対応、学生支援、就職支援、女子寮の環境整備

①計画

(1) 高等教育の修学支援新制度への対応

経済的支援を必要とする学生が増加傾向にある状況を踏まえ、高等教育の修学支援新制度について、在学生等への情報提供及び支援を希望する在学生等への対応を適切に行う。また、認定者の学業成績の管理を適正に行う。

(2) 学生支援

①課外活動支援強化

新型コロナウイルス感染症により、活動の縮小を余儀なくされた課外活動について、活動の活生化にむけた施策を、学生自治会とより密な連携を図りながら継続する。

②学生指導体制強化

学生のポートフォリオ、IRデータ等を活用し、学生指導体制を強化し、個々の学生の状況に応じた丁寧な学生指導を実施する。

学生支援窓口を適切に運用し、他部署の連携を図りながら、より効果的にきめの細かな学生相談対応を行う。

(3) 就職支援

進路決定率 100%を保ちつつ、学生の希望するキャリアプランの実現に向け、受入れ機関との情報交換を緊密に行い、就職支援の強化を図る。また、学生のキャリア意識を早期から醸成させるため、低年次のガイダンス等を充実させるとともに、インターンシップが採用に直結できる就活ルール改定を踏まえ、インターンシップ支援の強化を図る。

(4) 女子寮の環境整備

老朽化の進む女子寮の将来の在り方について検討を進めつつ、入寮生の利便性の向上、安全確保に配慮した環境整備を図る。特に、施設・設備について更新計画を策定、実施し、アメニティー向上を図る。

②実績

(1) 高等教育の修学支援新制度への対応

文部科学省に対し、修学支援新制度の機関要件の確認申請を行い、対象機関として引き続き認定を受けた。

支援を必要とする学生に対し、年度初めに複数回の説明会を実施するとともに、家計急変や年度途中からの支援希望者についても適宜対応した。また、認定者の学業成績の管理を適切に行い、日本学生支援機構に報告を行った。

(2) 学生支援

i 課外活動支援強化

星葉祭を 10 月 26 日（土）、27 日（日）に開催し、両日合わせて約 4,000 人の来場者を迎え、好評を得た。

自治会、各クラブ、学生支援部との意思疎通の場として、5 月と 1 月にクラブ部長会を開催し、各種連絡や注意喚起などを行った。

ii 学生指導体制強化

教務部と共同で行った全学生の指導教員との面談について、START のポートフォリオ機能を活用し、学生へフィードバックを行った。

また、揺籃会の協力を得て、星葉科大学こころとからだの相談ダイヤルを引き続き運用し、学生のメンタルケアを図った。

障がい学生支援に関する規程整備を行い、障がい学生支援委員会を設置した。

また、対応マニュアルを作成し、運用を開始した。2024 年度は 5 件の配慮申請があり、審議を行い対応した。

(3) 就職支援

(ア) 学内就職説明会について、対面にて開催した。2024 年度は実施日数を圧縮し、1 日間で複数施設を利用して開催した。参加企業数は 131 社（前年度 137 社）、参加学生実数は 201 名（前年度 160 名）であった。参加者からは、薬剤師の職能の幅広さを理解できた、業界、業種、会社の理解が深まった、対面での実施により質問がしやすかったなどの好評を得た。一方で、複数施設にて 1 日間で開催した

事による移動の不便さ、座席・訪問回数不足などの指摘があった。

(イ) 例年開催している就職ガイダンス、各種セミナーについては、主にオンラインによる Live 配信とオンデマンド配信のハイブリッドで行い、計画通り実施できた。

また、学生が早期からキャリアを考えてもらうため、OB・OG の講演会を企画し、実施した。

(ウ) 求人、会社案内、インターンシップ等の就職関連情報について、引き続き、全て Google 共有ドライブ上で閲覧できるよう、情報の電子化を行い、特に有用な情報については、都度電子メールで学生に周知を図った。

(エ) 創薬科学科において、2023 年度に引き続き、学外体験学習を実施した。学外体験学習は、「事前研修」、「学外研修」、「事後研修」の 3 つのユニットで構成され、特に「学外研修」は 4 週間の企業体験学習を基本としており、趣旨に賛同いただいた、9 社の協力を得て実施した。学外体験学習を通して、創薬科学科の基本方針に基づく人材育成を行うとともに、学生が将来のキャリアについて深く考える機会を提供することができた。

(4) 女子寮の環境整備

全部屋で Wi-Fi が利用できるようネットワーク工事を開始した。また、老朽化したエアコン、冷蔵庫、洗濯機等の設備について、適宜更新を行っている。

【アドミッションオフィス】・入試制度及び適切な入学試験方法の検討、広報の充実

①計画

(1) アドミッションポリシーに基づいた、入試制度及び適切な入学試験方法の検討
質の高い入学志願者を安定的に確保するため、現行の入試制度の検証を行う。また、入学試験方法については、本学の入学志願者が、将来の医療人としての資質、能力、意欲や適性等を有しているかを評価するために、どのような入学試験や面接を実施すべきか検討する。その基礎となるデータを蓄積するため、入学者の追跡調査等に注力する。

(2) 適正な人材の確保に向けた広報活動

優秀な人材を確保し、かつ、大学と学生のミスマッチを減少させるため、受験生に対し、①本学のアドミッションポリシー、②研究型大学であること、③本学のカリキュラムポリシー、④講義・実習の到達目標、受講心得、学修内容、評価方法等、を十分理解するよう広報を行う。また、広報手段として、オープンキャンパス、進学相談会、高校内ガイダンス、大学案内送付、WEB 広告等の効果的な活用について、検討する。

(3) ホームページ「受験生サイト」の改善

ホームページ「受験生サイト」は、ホームページのリニューアルにより、入試情報の提供だけでなく、広報としても使用しやすいものとなった。受験生が求める情報が適宜更新される等、情報発信の迅速性を確保するため、維持、管理、更新の方法について検討する。

(4) 高大連携

高校生の薬学についての関心を喚起するため実施している「薬学への招待」及び、「模擬講義」は、本学の研究内容や教育方針を直接的に提供できる機会として有用である。そこで、入試広報活動の一環として、対象とする高校については、過去の入学実績や偏差値だけでなく、本学が求める優秀な生徒の有無等、総合的な判断により決定する。

②実績

(1) アドミッションポリシーに基づいた、入試制度及び適切な入学試験方法の検討
適切な入学試験の実施にむけ、入試対策委員会が中心となり本学が実施している入学試験を多面的に分析し、選抜方式、入試科目、入試日程、大学入学共通テスト利用の妥当性、学力の三要素の測定方法等について議論を重ねた。大学を取り巻く環境の変化に対応すべく、入念に調査・分析を行い、引き続き、適切な入学試験の実施について検討していく。

(2) 適正な人材の確保に向けた広報活動

入学希望者を安定的に確保し、また、入学後のミスマッチが生じないように、ホームページ、大学案内、進学情報サイト、その他各種広報企画を利用し、適正な情報の提供を行うよう努めた。また、昨年同様、学外で行われる進学相談会等にも積極的に参加し、受験生に直接本学の教育方針等を伝える機会を増やした。本学が研究型大学であり、教育の中心は研究であることを表現し、本学の3ポリシーが理解されるよう広報活動を行った。

(3) ホームページ「受験生サイト」の改善

トップページの構成、お知らせの見やすさなど、コンテンツの整理を行った。入試情報の提供だけでなく、広報的視点も含めて受験生が求める情報とは何かを検討しながら、適切に維持・管理・更新を行った。また、高校生に情報が届くことを念頭に、内容によってはSNSを使用した。

(4) 高大連携

2024年11月20日にフェリス女学院中学校・高等学校と高大連携協定を締結した。連携事業の内容は、「探究活動」等における教職員及び学生と生徒の交流、教育についての情報交換及び交流であり、これにより双方の教育の活性化を目指していく。高大連携事業については、これまで薬学への招待や模擬講義が中心であったが、高等学校からも意見を募り、本学の研究内容や教育方針をより広く、より分かりやすく提供するにはどのような方法があるのか検討していきたい。

3. 補助金等に関する事項

(1) 2024年度 私立大学等経常費補助金

補助金 285,651千円

(①一般補助 261,985千円 ②特別補助 23,666千円)

(2) 2024年度 文部科学省科学研究費助成事業(研究代表者分)

92,430千円

(新規21件 58,250千円)

研究種目	課題番号	所属研究室	氏名・職名	
基盤研究(B)	23K21294*1	タンパク質分解創薬研究室	大竹 史明	准教授
基盤研究(B)	23K27307*1	生体分子有機化学研究室	叶 直樹	教授
基盤研究(B)	24K02156	薬品製造化学研究室	杉田 和幸	教授
基盤研究(B)	24K02157	機能分子創成化学研究室	眞鍋 史乃	教授
基盤研究(B)	24K02310		牛島 俊和	学長
基盤研究(B)	24K02393	医療薬学研究室	野村 幸世	教授
基盤研究(B)	24K02542	薬理学研究室	成田 年	教授
基盤研究(C)	24K09649	ストレス回復研究室	田村 英紀	准教授
基盤研究(C)	24K09754	薬品分析化学研究室	伊藤 里恵	准教授
基盤研究(C)	24K09836	分子生物学研究室	千葉 義彦	教授
基盤研究(C)	24K09853	薬理学研究室	森 友久	教授
基盤研究(C)	24K09899	分子薬剤学研究室	服部 喜之	教授
基盤研究(C)	24K09970	薬動学研究室	落合 和	教授
基盤研究(C)	24K10343	病態生理学研究室	清水 孝恒	准教授
基盤研究(C)	24K10413	エピゲノム創薬研究室	竹島 秀幸	特任准教授
基盤研究(C)	24K12123	分子生物学研究室	花崎 元彦	客員研究員
基盤研究(C)	24K14491	運動科学研究室	竹ノ谷 文子	准教授
若手研究	24K17840	薬品製造化学研究室	加茂 翔伍	助教
若手研究	24K20135	医療コミュニケーション学研究室	横田 理恵	講師
特別研究員奨励費	24KJ2043	薬品製造化学研究室	益子 智弥	特別研究員(DC2)
特別研究員奨励費	24KJ2044	タンパク質分解創薬研究室	秋月 慶乃	特別研究員(DC1)

(順不同)

*1 基盤研究(B)の基金化

令和6年度より、基盤研究(B)が基金化され、令和5年度以前に採択となった課題についても令和6年度から基金となった。

(継続 25 件 46,057 千円)

研究種目	課題番号	所属研究室	氏名・職名
学術変革領域研究 (A)	23H04922	タンパク質分解創薬研究室	大竹 史明 准教授
基盤研究 (B)	23H02616	生体分子有機化学研究室	叶 直樹 教授
基盤研究 (C)	21K03482	薬品物理化学研究室	山下 雄史 准教授
基盤研究 (C)	22K06587	生化学研究室	東 伸昭 教授
基盤研究 (C)	22K06603	微生物学研究室	築地 信 准教授
基盤研究 (C)	22K06671	生薬学研究室	森田 博史 教授
基盤研究 (C)	22K06685	生薬学研究室	平澤 祐介 講師
基盤研究 (C)	22K06686	微生物学研究室	奥 輝明 講師
基盤研究 (C)	22K06705	製剤設計学研究室	池内 由里 准教授
基盤研究 (C)	22K06869	薬動学研究室	酒井 寛泰 准教授
基盤研究 (C)	22K09082	薬理学研究室	葛巻 直子 准教授
基盤研究 (C)	22K11838	薬動学研究室	五十嵐 信智 講師
基盤研究 (C)	22K12895	実務教育研究部門	須永 登美子 准教授
基盤研究 (C)	23K03006	心理学研究室	川崎 勝義 准教授
基盤研究 (C)	23K04737	生体分子有機化学研究室	池内 和忠 講師
基盤研究 (C)	23K05100	薬品分析化学研究室	岩崎 雄介 准教授
基盤研究 (C)	23K06071	薬品物理化学研究室	井上 元基 講師
基盤研究 (C)	23K06289	実務教育研究部門	湧井 宣行 講師
基盤研究 (C)	23K07775	製剤設計学研究室	小幡 誉子 教授
基盤研究 (C)	23K11439	薬学教育研究部門	山崎 正博 教授
基盤研究 (C)	21K08954	分子生物学研究室	花崎 元彦 客員研究員
若手研究	23K14362	薬理学研究室	濱田 祐輔 助教
若手研究	23K14440	薬動学研究室	今 理紗子 講師
若手研究	23K15025	エピゲノム創薬研究室	江畑 貴大 特任助教
研究活動スタート支援	23K19797	医療コミュニケーション学研究室	横田 理恵 講師

(順不同)

上記には、繰越および延長を含む。

(3) 2024年度 厚生労働科学研究費補助金等
(新規 3件 21,320千円)

事業名	研究題目【課題番号】	代表/分担 研究者	交付額 (千円)
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究	加熱式たばこなど新たなたばこ製品の成分分析と生体影響研究を組み合わせた能動喫煙・受動喫煙の健康影響評価【24FA2001】	(分担) 衛生化学研究室 戸塚(内田) ゆ加里教授	2,720
化学物質リスク研究事業	有機フッ素化合物の発がん性評価と評価スキームの確立に関する研究【24KD1002】	(分担) 衛生化学研究室 戸塚(内田) ゆ加里教授	2,500
食品の安全確保推進研究事業	食中毒原因病原大腸菌の検査法の西部及び食中毒対策推進のための研究【24KA1002】	(代表) 微生物学研究室 工藤 由起子 教授	16,100

(継続 8件 47,242千円)

事業名	研究題目【課題番号】	代表/分担 研究者	交付額 (千円)
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究	指定薬物の指定に係る試験法の評価検証に資する研究【22KC1005】	(分担) 薬理学研究室 森 友久 教授	530
食品の安全確保推進研究事業	動物性食品輸出の規制対策の強化に資する研究【23KA1007】	(代表) 薬品分析化学研究室 穂山 浩 教授	30,300
化学物質リスク研究事業	オルガノイドおよびその共培養系を用いた化学物質の新規 in vitro 有害性評価手法の確立【22KD1001】	(代表) 衛生化学研究室 戸塚(内田) ゆ加里教授	11,362
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究	曝露・炎症マーカー等を組み合わせた加熱式たばこによる受動喫煙の健康影響を評価するための研究【23FA1002】	(分担) 衛生化学研究室 戸塚(内田) ゆ加里教授	900
化学物質リスク研究事業	ナノマテリアルの有害性評価を迅速化・高度化する短期経気管肺内噴霧暴露評価系および in vitro 予測手法の開発【23KD1002】	(分担) 衛生化学研究室 戸塚(内田) ゆ加里教授	3,250
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	大麻をはじめとする薬物の効果的な予防啓発活動の実施及び効果検証に向けた調査研究【23KC2005】	(分担) 薬理学研究室 森 友久 教授	900

(4) 2024年度 食品衛生基準科学研究費補助金
(新規 1件 3,700千円)

事業名	研究題目 【課題番号】	代表/分担 研究者	交付額 (千円)
食品安全科学研究事業	畜水産食品中の動物用医薬品等の新たな評価管理手法の導入のための研究【24KA1007】	(代表) 薬品分析化学研究室 穂山 浩 教授	3,700

(継続 1件 3,048千円)

事業名	研究題目 【課題番号】	代表/分担 研究者	交付額 (千円)
食品安全科学研究事業	食品中残留農薬等の試験法開発における課題の解決に向けた研究【22KA1009】	(分担) 薬品分析化学研究室 穂山 浩 教授	3,048

(5) 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
 (新規 7件 55,809千円)

事業名	研究題目	代表/分担 研究者	交付額 (千円)
橋渡し研究プログラム (国立がん研究センター拠点)	短糖鎖改変による腫瘍集積工場を目指した抗体開発	(代表) 機能分子創成化学研究室 眞鍋 史乃 教授	3,679
橋渡し研究プログラム(橋渡し研究支援プログラム:preF)	がん緩和医療及びがん支持療法拡充のための依存性の無い強力な非麻薬性オピオイド鎮痛薬の開発	(代表) 薬理学研究室 成田 年 教授	13,000
次世代がん医療加速化研究事業	新規創薬戦略「メチル化合成致死」の PROTAC 活用による実現	(代表) 牛島 俊和 学長	1,300
慢性の痛み解明研究事業	先端的遺伝子改変技術を応用した線維筋痛症病態の多次元解析とバイオマーカーおよび新規治療法の探索	(代表) 薬理学研究室 成田 年 教授	5,850
地球規模保健課題解決追伸のための研究事業 日米医学協力計画	日米医学協力計画を基軸とした感染関連がんに関する疾患研究	(分担) 衛生化学研究室 戸塚(内田)ゆ加里 教授	390
医薬品等規制調和・評価研究事業	マイコプラズマ否定試験法における試験法検証に関する研究	(代表) 微生物学研究室 工藤 由起子 教授	6,890
革新的がん医療実用化研究事業	分子オミックスデータの統合解析による日本人の腎臓がん発症に関与する環境因子の同定と早期診断・予防戦略の開発	(代表) 衛生化学研究室 戸塚(内田)ゆ加里 教授	24,700

(継続 10件 215,295千円)

事業名	研究題目	代表/分担 研究者	交付額 (千円)
革新的先端研究開発支援事業	プロテオスタシスの異常を是正するネオユビキチンコードの解明	(代表) タンパク質分解創薬研究室 大竹 史明 准教授	61,880
医薬品等規制調和・評価研究事業	アドバンスドマテリアルを利用した医薬品・医療機器等の安全性評価に資する研究	(分担) 衛生化学研究室 戸塚(内田)ゆ加里 教授	1,755
橋渡し研究プログラム (慶應義塾拠点)	細胞周期制御因子を選択的に分解するキメラ型標的タンパク質分解誘導剤の創製と抗腫瘍剤としての開発	(代表) 生体分子有機化学研究室 叶 直樹 教授	2,420
慢性の痛み解明研究事業	miRNA 網羅的解析により得られた神経傷害性疼痛バイオマーカーの有用性に関する研究開発	(分担) 薬理学研究室 成田 年 教授	3,250
革新的がん医療実用化研究事業	国際共同研究に資する大規模日本人がんゲノム・オミックス・臨床データ統合解析とゲノム予防・医療推進	(分担) 衛生化学研究室 戸塚(内田)ゆ加里 教授	1,040
次世代がん医療加速化研究事業	放射性医薬品の物性並びに動態制御に資する新規抗体就職技術の開発	(分担) 機能分子創成化学研究室 眞鍋 史乃 教授	2,600
革新的がん医療実用化研究事業	HER2 陽性乳癌に対する手術省略を目指した医療機器の開発研究	(分担) 牛島 俊和 学長	1,300
ゲノム研究を創薬等出口に繋げる研究開発プログラム	AI を利用した新規抗がん薬の創薬研究加速システムの開発	(分担) 牛島 俊和 学長	7,800
革新的先端研究開発支援事業	エピゲノム不安定性の機構とAYA 癌予防戦略の解明	(代表) 牛島 俊和 学長	85,800
革新的がん医療実用化研究事業	ピロリ菌除菌後健康人を対象とした世界初エピゲノム発がんリスク診断の実用化	(代表) 牛島 俊和 学長	47,450

(6) 国立がん研究センター研究開発費

(継続：3件 2,000千円)

研究題目	代表/分担 研究者	交付額 (千円)
オミックス情報を活用した新たながん予防開発研究基盤の構築	(分担) エピゲノム創薬研究室 竹島 秀幸 特任准教授	500
オミックス情報を活用した新たながん予防開発研究基盤の構築	(分担) 衛生化学研究室 戸塚 (内田) ゆ加里 教授	500
セラノスティクスモダリティの拡大と新たな非侵襲性バイオプシーの開発基盤構築に関する研究	(分担) 機能分子創成化学研究室 眞鍋 史乃 教授	1,000

(7) その他

配分機関： 日本学術振興会 (JSPS)

事業名： 二国間交流事業共同研究・セミナー (ドイツとの共同研究：DAAD)

研究課題： 腫瘍内活性酸素の濃度の亢進と選択的薬物放出を組み合わせた新規がん治療法の開発

代表研究者： 疾患解析創薬学研究室 加藤 良規 教授

交付額： 1,940千円

配分機関： 日本学術振興会 (JSPS)

事業名： 二国間交流事業共同研究・セミナー (中国との共同研究：NSFC)

研究課題： 腫瘍内活性酸素の濃度の亢進と選択的薬物放出を組み合わせた新規がん治療法の開発

代表研究者： 衛生化学研究室 戸塚 (内田) ゆ加里 教授

交付額： 1,500千円

配分機関： 国立研究開発法人化学技術振興機構 (JST)

事業名： 研究成果展開事業/研究成果最適展開支援プログラム 産学共同 (本格型)

研究課題： 高機能シス型会アスタキサンチンエステル製剤の実用化研究

研究分担者： 衛生化学研究室 戸塚 (内田) ゆ加里 教授

交付額： 0円

配分機関： 内閣府食品安全委員会

事業名： 令和6年度食品健康影響評価技術研究

研究課題： 食品中に存在するナノ粒子のリスク評価手法に関する研究

研究分担者： 薬品分析化学研究室 穂山 浩 教授

交付額： 6,000千円

配分機関： 内閣府食品安全委員会

事業名： 令和6年度食品健康影響評価技術研究

研究課題： 我が国の特定原材料に対する網羅的なアレルギー症状誘発確率の推計と
ばく露評価に基づいた定量的リスク評価に関する研究

研究分担者： 薬品分析化学研究室 穂山 浩 教授

交付額： 2,500 千円

配分機関： 国土交通省

事業名： 令和6年度建設技術研究開発費補助金

研究課題： ICTによる潜水土の労働負荷の実態把握と労務最適化による生産性向上に
関する実証研究

研究分担者： 医療データサイエンス研究室 児玉 耕太 教授

交付額： 9,990 千円

(8) 2024年度共同研究費(新規)

(12件 24,370千円)

所属研究室	氏名・職名
薬品分析化学研究室	穂山 浩・教授
エピゲノム創薬研究室	牛島 俊和・学長
実務教育研究部門	佐野 元彦・教授
衛生化学研究室	戸塚(内田) ゆ加里・教授
分子薬剤学研究室	服部 喜之・教授
生物制御科学研究室	細江 智夫・教授
薬品物理化学研究室	井上 元基・講師 (2件)
生体分子有機化学研究室	叶 直樹・教授
生薬学研究室	金田 利夫・准教授
薬動学研究室	五十嵐 信智・講師
生化学研究室	東 伸昭・教授

(順不同)

(9) 2024年度受託研究費(新規)

(3件 7,384千円)

所属研究室	氏名・職名
	牛島 俊和 学長 ・ 穂山 浩 教授
	牛島 俊和 学長 ・ 東 伸昭 教授
薬品分析化学研究室	穂山 浩 教授

(順不同)

(10) 2024年度学術指導

(1件 700千円)

所属研究室	氏名・職名
薬品分析化学研究室	穂山 浩 教授

4. 最近5ヶ年の入試結果

【学校推薦型選抜（公募制）】

年 度		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
2025年度	薬学科（専願）	80	305 (232)	304 (231)	79 (62)	79 (62)	3.8
	薬学科（併願可）	20	305 (247)	300 (245)	79 (69)	27 (24)	3.8
	創薬科学科（併願可）	4	49 (28)	49 (28)	13 (7)	8 (4)	3.8
2024年度	薬学科（専願）	80	290 (216)	287 (214)	81 (58)	81 (58)	3.5
	薬学科（併願可）	20	309 (244)	304 (242)	73 (60)	19 (15)	4.2
	創薬科学科（併願可）	4	46 (23)	45 (22)	10 (7)	4 (2)	4.5
2023年度	薬学科（専願）	80	315 (225)	315 (225)	80 (59)	80 (59)	3.9
	薬学科（併願可）	20	312 (246)	311 (245)	71 (62)	17 (15)	4.4
	創薬科学科（併願可）	4	42 (25)	42 (25)	13 (8)	2 (0)	3.2
2022年度	薬学科（専願）	80	252 (186)	252 (186)	81 (63)	81 (63)	3.1
	薬学科（併願可）	20	321 (259)	320 (258)	88 (73)	34 (26)	3.6
	創薬科学科（併願可）	4	30 (18)	30 (18)	13 (8)	3 (2)	2.3
2021年度	薬学科（専願）	80	291 (221)	291 (221)	82 (62)	82 (62)	3.5
	薬学科（併願可）	20	275 (218)	273 (216)	89 (73)	27 (19)	3.1
	創薬科学科（併願可）	4	30 (23)	29 (22)	12 (7)	1 (0)	2.4

() 内は女子内数

【一般選抜（A方式：大学入学共通テスト利用）】

年 度		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
2025年度	薬 学 科	10	824 (562)	823 (562)	176 (126)	9 (7)	4.7
	創薬科学科	4	197 (111)	197 (111)	54 (34)	3 (2)	3.6
2024年度	薬 学 科	10	668 (419)	667 (418)	171 (106)	10 (6)	3.9
	創薬科学科	4	160 (93)	160 (93)	55 (30)	2 (0)	2.9
2023年度	薬 学 科	10	893 (583)	890 (581)	179 (113)	7 (3)	5.0
	創薬科学科	4	223 (123)	223 (123)	59 (28)	4 (3)	3.8
2022年度	薬 学 科	10	752 (510)	752 (510)	178 (122)	11 (9)	4.2
	創薬科学科	4	138 (74)	138 (74)	60 (30)	5 (2)	2.3
2021年度	薬 学 科	10	732 (465)	728 (463)	173 (110)	11 (8)	4.2
	創薬科学科	4	151 (76)	150 (75)	173 (111)	1 (0)	2.3

() 内は女子内数

【一般選抜（B方式：本学独自試験）】

年 度		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
2025年度	薬 学 科	120	1,361 (899)	1,308 (864)	371 (235)	137 (85)	3.5
	創薬科学科	8	169 (91)	155 (85)	41 (21)	10 (4)	3.8
2024年度	薬 学 科	120	1,287 (801)	1,246 (780)	413 (248)	151 (79)	3.0
	創薬科学科	8	144 (66)	138 (63)	60 (28)	15 (8)	2.3
2023年度	薬 学 科	120	1,511 (933)	1,446 (888)	434 (277)	137 (95)	3.3
	創薬科学科	8	188 (99)	182 (95)	51 (23)	15 (7)	3.6
2022年度	薬 学 科	120	1,374 (844)	1,314 (812)	366 (215)	144 (85)	3.6
	創薬科学科	8	125 (54)	118 (51)	57 (23)	21 (9)	2.1
2021年度	薬 学 科	120	1,182 (703)	1,128 (680)	405 (234)	134 (81)	2.8
	創薬科学科	8	89 (45)	85 (42)	62 (31)	22 (13)	1.4

() 内は女子内数

【一般選抜（S方式：大学入学共通テスト・本学独自試験併用）】

年 度		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
2025年度	薬 学 科	30	435 (295)	394 (272)	101 (67)	15 (10)	3.9
	創薬科学科	4	70 (31)	64 (30)	11 (6)	1 (0)	5.8
2024年度	薬 学 科	30	420 (278)	367 (236)	98 (61)	15 (9)	3.7
	創薬科学科	4	58 (24)	53 (21)	16 (4)	1 (0)	3.3
2023年度	薬 学 科	30	460 (294)	405 (257)	105 (65)	29 (17)	3.9
	創薬科学科	4	59 (30)	50 (25)	10 (5)	0 (0)	5.0
2022年度	薬 学 科	30	379 (234)	326 (206)	107 (71)	20 (15)	3.0
	創薬科学科	4	39 (21)	37 (20)	13 (7)	2 (1)	2.8
2021年度	薬 学 科	30	368 (221)	330 (193)	105 (60)	20 (10)	3.1
	創薬科学科	4	32 (16)	31 (15)	10 (6)	0 (0)	3.1

() 内は女子内数

5. 最近5ヶ年の薬剤師国家試験結果

【6年制（新卒）】

年 度	受験者数	合格者数	合格率	順位
2024年度（第110回）	254	224	88.19%	20（私立56大学中）
2023年度（第109回）	246	214	86.99%	22（私立56大学中）
2022年度（第108回）	233	211	90.56%	13（私立56大学中）
2021年度（第107回）	263	231	87.83%	21（私立56大学中）
2020年度（第106回）	262	247	94.27%	7（私立56大学中）

【総 数】

年 度	受験者数	合格者数	合格率	順位
2024年度（第110回）	330	273	82.73%	11（私立56大学中）
2023年度（第109回）	320	258	80.63%	13（私立56大学中）
2022年度（第108回）	300	255	85.00%	9（私立56大学中）
2021年度（第107回）	317	261	82.33%	12（私立56大学中）
2020年度（第106回）	314	279	88.85%	3（私立56大学中）

6. 2024年度学位授与数（2025年3月31日現在）

区 分	人数
課程博士（薬学専攻）	3名
課程博士（総合薬科学専攻）	5名
課程外博士	5名
修士	11名
学士（薬学科）	274名
学士（創薬科学科）	26名
合計	324名

7. 2024年度卒業生 就職・進学状況

(2025年3月31日現在)

		内 定 先																			就職決定学生数	※1就職率 %	進 学					進学決定学生数	※2進路決定学生数	進路決定率 %	進路未定学生数	進路未定率 %	非就職希望学生数	卒業・修了者数					
		製造販売業										卸売業	ドラッグストア	保険薬局	病院	病院研修生	CRO・SMO	教育・研究	ポスドク	国家公務員			地方公務員	独立行政法人	IT・サービス業	その他	大学院								科目等履修生・研修生	専門学校	留学	医・歯学部	他学部
		医薬品					化学等																																
		MR	研究	開発・PV	学術	品質管理	技術・総合	営業・企画	研究・開発	学術	技術・総合																												
薬6	男	4	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	27	19	4	1	5	0	0	1	2	0	1	0	67	100.0%		6	0	0	0	0	6	73					
6	女	5	0	6	1	2	1	2	1	0	0	1	46	51	34	7	18	0	0	0	3	0	1	0	179	99.4%	1	0	0	0	0	1	180	99.4%	1	0.6%	0	181	
薬学計		9	0	7	1	2	2	2	1	0	0	2	73	70	38	8	23	0	0	1	5	0	2	0	246	99.6%	7	0	0	0	0	7	253	99.6%	1	0.4%	0	254	
創4	男	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	6	100.0%	6	0	0	2	0	8	14	100.0%	0	0.0%	0	14
4	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	4	100.0%	7	0	0	0	0	7	11	100.0%	0	0.0%	1	12	
創業計		0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	4	10	100.0%	13	0	0	2	0	15	25	100.0%	0	0.0%	1	26	
M2	男	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	80.0%	0	0	0	0	0	0	4	80.0%	1	20.0%	0	5	
2	女	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3	100.0%	3	0	0	0	0	3	6	100.0%	0	0.0%	0	6	
D3	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	0	
3	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	0	
D4	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100.0%	0	0	0	0	0	0	1	100.0%	0	0.0%	0	1	
4	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	0	
大学院計		0	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	8	88.9%	3	0	0	0	0	3	11	91.7%	1	8.3%	0	12	
総計		9	4	7	1	2	2	4	1	0	2	2	73	70	39	8	26	0	0	1	5	1	3	4	264	99.2%	23	0	0	0	0	25	289	99.3%	2	0.7%	1	292	

調査対象学生数 292 [内訳] 薬学6年 254(男73,女181): 創薬4年 26(男14,女12): M2 11(男5,女6): D3 0 : D4 1(男1)

※1 就職率 = 就職決定学生数 ÷ (卒業・終了者数 - 進学決定学生数 - 非就職希望学生数)

※2 進路決定率 = (就職決定学生数 + 進学決定学生数) ÷ (卒業・終了者数 - 非就職希望学生数)

【過去5年間の傾向】

薬学科	2024	2023	2022	2021	2020
医薬品メーカー	8.3	9.7	9.4	4.9	9.2
病院・病院レジデント	18.1	20.6	20.1	15.9	19.5
薬局	26.8	25.5	29.5	34.5	29.8
ドラッグストア	29.5	27.5	29.5	32.2	32.1
公務員	2.4	2.8	3.4	4.2	1.5

(%)

創薬科学科	2024	2023	2022	2021	2020
大学院進学	50.0	80.0	75.0	80.0	78.6

(%)

修士課程(M2)	2024	2023	2022	2021	2020
医薬品メーカー (MR職以外)	36.4	17.6	27.8	27.8	33.3
化学メーカー等 (営業・企画職以外)	9.1	0.0	27.8	33.3	5.6
CRO・SMO	9.1	35.3	11.1	16.7	33.3

(%)